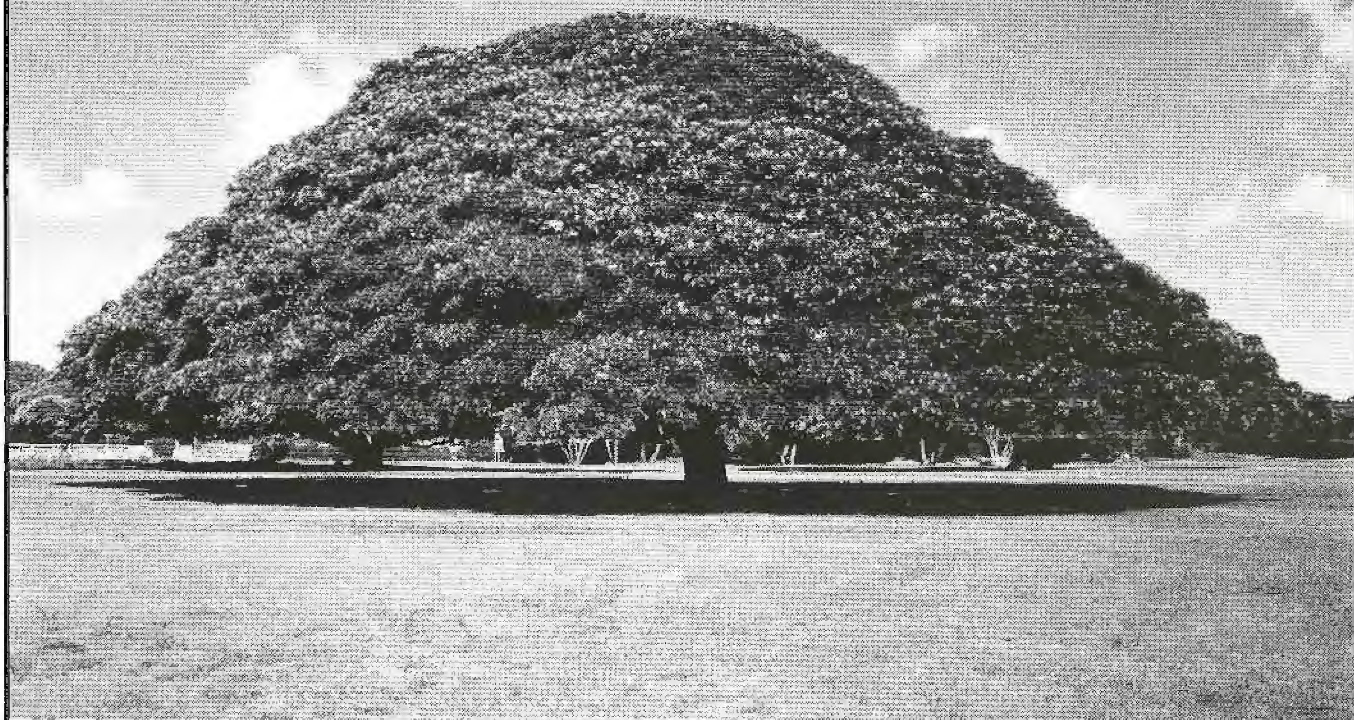


きっと、もっと、すてきな夢を咲かせます。

人間らしさをキーワードに、いま私たちの生活や社会には

本当の豊かさやゆとりが求められています。

日立は、どこまでも人にやさしい先端技術を通じて

そんな暮らしの夢をひとつひとつ花開かせ

豊かな実りをお届けします。

株式会社 日立製作所

巻頭言

(財)日本ハンドボール協会に 競技委員会新設



競技担当常務理事
大塚文雄

㈶日本ハンドボール協会に、競技委員会が新設されました。

かねてから競技委員会の設置は日本協会の懸案事項でありましたが、熊本世界選手権大会成功に向け日本協会の全精力を注ぎ込み、人的余裕もなかったのでのびのびとなっておりましたが、世界選手権大会が大フィーバーのうちに終了した今、7月の常務理事会で新設を決め、業務の内容上私が審判委員会を兼任しながら、当面競技委員会も担当してまいります。よろしくお願い致します。

従来の日本協会には、競技部門が確立していなかったため、大会の運営に関することは、すべて審判部門がカバーしてきましたが、IHFでもそうであるように、審判部門はルールと審判に関することだけで、競技の運営に関することは、競技部門が担当するのが当然のことです。

従って、従来全日本大会の代表者会議等で「競技上の注意」として大会審判長が競技時間のこと(延長戦を含め)、メンバー提出やトスのこと、ユニフォームの色に関すること、松ヤニの使用について…、など説明しているが、これらはルールに関することではなく、大会運営上の問題であるので、本来大会競技委員長が説明すべき事項であります。

今後、各連盟、各ブロックを中心に組織の充実を図り改善していきたいと思います。

また、当面の課題として、重要なことは、スポーツ競技は用具と技術の発達の関連は明らかなのは言うまでもありませんが、ハンドボール競技でも、より優れた用具を研究・開発し、それを普及・推奨していくことが肝要であると考えます。その意味でもボールやゴールポスト、ゴールネットなど製造業者とタイアップして、より良いものを研究・開発していきたいと思います。

アイディアやご意見がございましたら、是非お寄せ下さい。

よろしくお願い申し上げます。

協会だより

平成9年度会 7月度常務理事会

日時 7月19日(土) 13時～17時30分
場所 日体協 402号会議室
出席者 中澤専務理事、常務理事6名、理事、監事、参事各1名、事務局2名

1 2008年オリンピック候補地の選定について
大阪市、横浜市のオリンピック施設視察報告があり、検討した結果、常務理事会としての意志をふまえ、視察参加の4名に一任。

2 東アジア競技大会関連について
大阪市へ東アジア大会ハンドボール競技の参画検討依頼の報告があり、今後も引き続き要請していくこととした。

3 強化関連について

(1)全日本男子監督及びスタッフについて
強化委員会における協議報告があり、検討の結果、監督推薦にあたってオルソン前監督の指導方針を継承することを確認した。
監督候補について、関係先と交渉にはいることとした。
外国人コーチについては、監督の意向を尊重しながら検討する。コーチについては監督決定後人選をする。
ジャパンカップに向け早急に交渉を開始することで了承。

(2)強化体制の見直しについて
現状の強化体制をさらに充実を図るため、現状のナショナル委員会を強化委員会に統合し、強化委員会の下部組織に男女強化部会を設けることで了承。

(3)チーム編成の見直しについて
IHFによる国際大会での年齢区分に合わせ、全日本チームを現状の男女6チームから8チームに見直しすることで了承。次年度より強化部内で事業予算化する。

(4)日韓スポーツ交流事業について
JOC、日体協主催事業としての、韓国選手の受け入れ、日本チームの派遣、合宿交流試合について、日程、参加スタッフ、選手を了承。

(5)ドーピングコントロール（ドーピング検査）について
ドーピング検査を年度内の大会で実施する提案について、ドーピング検査の重要性は認識しているものの、実施にあたって事前の啓蒙教育が大切であり、スケジュール化して実施する必要があることから、今年度は見送り来年度実施する方向で検討することとした。

(6)アジア大会（兼世界選手権予選）がタイで1998年12月に実施される件について、強化部より日本リーグスケジュールの調整を依頼した。

(7)U－23女子チームのコーチにソニー国分の池ノ上監督の起用を了承。

(8)女子ジュニア、テラモ大会報告、15年ぶり優勝

(9)日中韓ジュニア交流（韓国）男子、久留米工業大学付属高校、女子、宣真高校の派遣報告

4 '97男子世界選手権財務・残務整理及び報告
世界選手権実行委員会より資料提出後検討し報告する。
世界選手権大会報告冊子について、ワールドドリームゲームを含め依頼した。
フレンドシップ収支決算報告。

5 日本協会今後のビジョン作り及び同役員の定年制について
ビジョンを含め評議員会からの提案の役員定年制について、定年制検討委員会を作ることの提案にとどめた。

6 中国チーム登録について
中国選抜チームに選手として参加するH日本リーグ所属選手について、チームに対して二重登録でなく、親善試合又は非公式の国際試合のため移籍問題に当たらずとの見解とした。

7 第52回国体派遣役員について
第52回国体派遣役員について了承。
ジャパンオープントーナメント、全日本総合選手権についても同様とすることを了承。

8 全日本総合の見直しについて
原案を、連盟より意見を収集し策定し、10月常務理事会及び11月全国理事会へ提案することとした。

9 第22回・23回高校選抜大会開催について
高体連よりの要望について検討。愛知県協会の意向を確認し、専務理事に一任することとした。

10 ビデオ制作・CS放送について
ビデオの販売促進、世界選手権大会CS放送契約交渉を継続していくことを確認。

11 '97ジャパンカップについて
'97ジャパンカップについて、広告協賛依頼と同大会の事前、事後の親善試合の日程報告があった。

報告事項

1 普及・指導関連について
平成9年度全国中学校体育大会助成金交付申請について、検討することとなった。
小学校学習指導要領への導入について、文部省へ陳情に行くなど、積極的に進める。
小学生大会のブロック開催状況報告。
スポーツ指導者養成について実施状況報告。
IHFコーチシンポジウム報告。

2 日本リーグ関連
日本リーグチーム名簿、第22回日本リーグ日程表報告。

3 ジャパンオープントーナメント組み合わせ

4 役員夏期行動予定表の提出依頼

特集 '97ジャパンカップ

'97ジャパンカップの裏方

常務理事（実行委員会副委員長）　江成元伸

暑かった夏も終わり、早くも秋のシーズン突入となりました。

時間が過ぎるのは早いもので、「'97ジャパンカップの大会運営について（案）」が出され、実行委員会が運営に当たると決めたのが今年の2月。'97男子世界選手権大会・熊本の開催を間近に控え、正直な感想としてはそれどころではないという気持ちでした。その後、実行委員会が何度も開催され、大会運営、協賛金の確保、招待チームの交渉と関係者がそれぞれ役割分担をし、一つ一つ山積みされた課題を解決していきました。

大会運営に関しては、当初都県3会場案もありましたがいろいろな条件から横浜会場、船橋会場となりました。宿舎も両会場いずれかの会場の近くにする案、両会場中間にする案などが検討されましたが、最終的に船橋市のホテルに決定しました。このことから会場に関する運営は会場地の県協会が運営する、会場運営に直接関係しない部分を日本協会が担当すると決まりました。会場運営は両県協会とも各種大会を開催していることから今までの経験をフルに生かし、特に、横浜会場は本年8月の直前に開催されたジャパンオープンのノウハウが生かされた運営となりました。

選手の移動、宿泊に関しては日本協会が当たることになりましたが、日本協会事務局と連携を取りつつ大会総務委員会を設立し、選手が試合に集中できる環境づくりに努力することを目標としました。この総務委員会は世界選手権大会後の「ワールド・ドリーム・ゲーム」でホテルにインフォメーションデスクを設置し、チームつき、選手の移動など環境づくりに経験を有するメンバーが当たりました。今回も同様にインフォメーションデスクを設置し、選手役員と接点をもつために積極的に前面にでる姿勢を打ち出しました。そのため、大会本部での仕事は減り、本部は倉庫代わりとなっていました。選手が快適に生活を送れるためにとインフォメーションボードを設置、スケジュールの告知、試合結果の速報、選手に対してミネラルドリンクの配給、試合前のカロリー補給のためのスポーツミールを準備するなどきめ細かい配慮を心がけました。スポーツミールは選手団総数180名となるため、経費節減も合わせ担当者が毎日スーパーに直接買いつけに行く努力もしました。

大会開催とは直接関係ありませんが、練習会場の確保は困難を極めました。男女合わせて8会場確保しなければならず、大会開催直前まで決まりませんでした。幸いにも地元出身の委員の努力によって最終的には調整がつき、練習会場のスペース、時間の調整などチームにとって最善ではなかったとは思いますが、朝の身体の調整には役立ったと思います。

大会中は四方選手の負傷など、数名の選手のトラブルが発生しましたが、幸いにも大事にいたらず胸をなで下ろしています。大会2日目の朝、常務理事会出席中に尚武の選手が前日の試合終了後から朝にかけて吐き気がするというので病院に連れていく、との連絡を受けました。前日のマクデブルグのと尚武の試合中、マクデブルグの選手のラフプレイによるものだと主張しているとのことでした。私もその試合を見ていたのですが、肘打ちがあったり、ストレートパンチがあったり、尚武の選手が頭を押さえているシーンを思い出し、あれが原因かと不安な気持ちでいっぱいでした。結果を聞くまで落ち着きませんでしたが、診断結果はインフルエンザと判明。入国以前に感染していたようです。当然のことながら、脳波もCTスキャンも異常なし。これも大事にいたらず安心しました。しかし、この尚武のインフルエンザ騒動は最後まで尾を引き、大会終了後に行われた大崎電気との試合は、選手の大半がインフルエンザでダウンし、重症組はホテルで待機していたとのことです。試合は7人で、ベンチは監督のみと聞きました。試合前、尚武の選手が氷嚢で頭を冷やしていたというのですから、尚武の選手も相手の大崎電気の選手も気の毒でした。その後、大崎チームのインフルエンザ感染は聞いていませんが、大丈夫だったのでしょうか。

'97ジャパンカップは実行委員会、両会場役員、大会総務委員会、日本協会事務局という裏方の支えで成り立っていました。さらに、大会中の審判長、立会人、審判員諸氏にはご苦労をおかけいたしました。また、ジャパンカップとして3日間の大会前後に、国際親善大会・行事を開催していただいた日本リーグ各チーム、関東学連の各チームの皆様方にも、大変お世話になりました。後援をいただいた関係機関、ご協賛をいただいた各社、報道各社に対しまして、この場をお借りしまして感謝の意を表したいと思います。

最後に、今大会は蒲生全日本のスタートの記念すべき大会でもありました。全日本女子、アンダー23才以下の男女チームの今後の益々の活躍を期待します。

'97ジャパンカップ神奈川大会から

神奈川県ハンドボール協会副会長　佐分正典

熊本世界選手権大会で世界の国々から強烈な光を浴びた日本ハンドボール界は、多くのハンドボール愛好者から、「強い全日本」「力

のある全日本」「スピードのある全日本」を望む声が大きく聞こえてきました。この時期に「'97ジャパンカップ」を開催し、新たなる光を求めることになりました。

　神奈川大会では、ドイツ・男子SCマクデブルク、女子VfBライプチヒの活躍でゲームが大変盛り上がりました。特に男子では、全日本蒲生監督の采配で一戦一戦に熱い戦いが展開されました。決勝戦では、マクデブルクと互角の争いとなり、わずかなチャンスを生かしたマクデブルクがジャパンカップを獲得して終わりました。女子では、ライプチヒが、技術・体力を生かし他を圧倒して優勝したが、日本女子U－23の活躍が目立ちました。若さ溢れ、伸び伸びとしたプレーで、どのゲームでも力の限りプレーしている姿は印象に残りました。

　三日間に渡るこの大会を開催して、神奈川県の中学生・高校生をはじめとするハンドボールファンは、世界選手権のミニ版としてゲームを楽しみ、シドニーオリンピックに向かう全日本の心意気をプレーに感じ、新しいルールから、新しいハンドボールの流れをつかみ、秋のスポーツシーズンに向けて良い機会となりました。

　終わりに、この大会が日本ハンドボール協会の主催行事として定着することにより、日本国内におけるナショナル選手の国際交流の場として、東京中心とした国際公式大会として位置づけ、日本ハンドボール界のレベルアップとハンドボールファンのアピールの機会となることを希望します。

'97ジャパンカップを終えて

千葉県ハンドボール協会副理事長　五味崇恵

　'97ジャパンカップは8割方は成功だったと思われます。日本ハンドボール協会60周年記念行事、男女ナショナルチームの強化事業として、シドニーに向けて、ハンドボールの普及と共にチャリティー事業という3つの大きな目的のもとに、千葉県、神奈川県の両県にて、8月29日、30日、31日と3日間にわたり開催されました。

　まず、日本ハンドボール協会60周年記念事業としての、'97ジャパンカップは、中央の日本ハンドボール協会という一点と、地方ハンドボール協会という一点がそれぞれ、立案から運営という面で「線」で結ばれた、大変有意義な大会であり、また今後につながっていく大会であったと思われます。

　60年という長い歴史の中で培われてきた、日本のハンドボールを世界のハンドボールの前線に押し出す一役を担ったのではないかと思います。

　次に、男女ナショナルチームの強化事業として、シドニーに向けて、という面では、会場のより良い環境作り、観客とコートが一体感をもてるように、選手が試合に集中できるようにと心掛け、大会運営を行いました。

　細かいことですが、ハーフタイムのミーティングルームを用意し、チームが周りを気にすることなく集中して試合ができることも心掛け、各チームにとっては満足のいく環境であったと思います。

　特に、男子のナショナルチームは、蒲生監督が決定したのも2週間足らずという短期間にも関わらず、監督の意向が選手に伝わっており、シドニーに向けて、という気迫が会場に伝わってきました。

　女子のナショナルチームも樫塚監督を中心に、ドイツで行われる世界選手権に向けての気迫と熱気が会場に伝わってきたことも、'97ジャパンカップの意義ある大会であったと言えると思います。

　それから、普及という面では、今までのような、ハンドボーラーを増やそうという普及と違い、ハンドボールのファンができた、という普及がありました。

　これも熊本の世界選手権が全国ネットワークであったことも大きいと思いますが、ハンドボールをまったく知らない、単なるハンドボールファンという観客も出てきたという現象が現れてきたということは、これからの日本ハンドボール界にとっても大きな収穫であったと思います。

　千葉県では今回の大会運営にあたり、今までのようなハンドボール関係者だけの運営と違い、地域のボランティアの方に運営の協力をお願いし、今までにない運営方法を行ってみたということも新たな発見でありました。ハンドボールをまったく知らない方でも協力できるし、ハンドボールを知らない人でもハンドボールのファンになれるということは、今後のハンドボール界が、何を行えばよいかを教えてくれた'97ジャパンカップであったと思います。

　最後に、ジャパンカップが今後、日本のハンドボールにとっての発展、普及はもちろんのこと、世界のハンドボールに肩を並べていくための糧となるように願っております。

　なお、'97ジャパンカップを行うにあたり、多くの方々のご助力に深く感謝致します。

'97ジャパンカップ試合結果

■男子

SCマクデブルク(ドイツ) 37（20－19、17－16）35 尚武(韓国)

得点	尚武	番号	番号	SCマクデブルク	得点
	BANG JOO HYEON	17	役員	KATI BOHMEIER	
	LEE SOON KIL	1	会長	REINHARD SCKUETTE	
1	PARK MIN CHUL	2	1	MARCO STANGE	
	KANG KWANG JUNG	3	2	VIATCHESLAV ATAWIN	7
	PARK KYUNG SOO	4	3	VYGINDAS PETKEVICIUS	3
2	KIM SUNG HEON	5	6	UWE MAEUER	4
4	JANG SUNG JIN	6	7	ROBERT-LOAN LICU	2
5	PARK SUNG RIB	7	9	GUERIK KERVADEC	2
5	KIM YOUG JIN	8	11	ERIK GOETHEL	3
10	YOO SUK JIN	9	12	HENNING FRITZ	
	MOON JUNG HO	10	13	SVEN LIESEGANG	
	KIM JONG PIL	11	14	STEFFEN STIEBLER	
8	CHO HAN JOON	13	15	TOMASZ LEBIEDZINSKI	1
	KIM YOUNG SIK	14	19	JOEL ABATI	8
	CHANG JUN SUNG	15	20	STEFAN KRETZSCHMAR	7
	LEE SUNG HWAN	16			
35			計		37

試合開始10分間はドイツSCマクデブルクの豪快なシュートで6－3とリードした。中盤から尚武の多彩なシュート、キーパーの好セーブで盛り返したが、20－19、マクデブルク1点リードで折り返した。後半は尚武のスピードや技術が、マクデブルクのそれを圧倒し、その差を4点まで広げた。特に尚武のチョはロング・サイドシュートを、チャンは7メータースローを確実に決めた。試合の流れを変えたのは、後半17分。マクデブルクは、ギリヤク失格後、5人での闘志あふれるディフェンスから、パスカットによる速攻に持ち込み、20分には同点に追いついた。残り5分にはピアチェスラフらのシュートによって2点差で尚武に勝った。

全日本 24（11－10、13－4）14 全日本U－23

得点	全日本	番号	番号	U-23	得点
	橋本　行弘	1	1	吉井　丈晴	
1	高木　浩司	2	2	池辺　健二	1
2	森本　彰宏	3	3	森山　透	1
	佐々木教裕	4	4	中川　善雄	1
1	富本　栄次	5	6	荒尾　祐治	5
3	岩本　真典	8	7	窪小谷貴浩	
2	木浪　達文	9	9	田場　裕也	3
4	末岡　政広	10	10	荒木　誠司	
1	永山　強	11	11	清水　祥二	
	四方　篤	12	12	元村　東弘	
1	藤井　孝志	13	13	所　勉	
2	杉山　裕一	14	14	岩本　裕	
5	茅場　清	17	15	田中　将	3
	山口　修	18	16	濱口　靖	
2	辻　昇一	20			
24			計		14

開始早々から攻守ともに貫禄あるプレーを展開するナショナルチームに対し、U－23は警告を立て続けに受けながらの苦しいでだしとなった。14分を経過して7－3としたナショナルチームの一方的なゲームかと思われたが、U－23は6番荒尾の活躍やスカイプレーで徐々にリズムをつかみ、ついに26分45秒、3番森山のステップシュートで逆転に成功。その後は、ナショナルチーム9番木浪、17番茅場が連続シュートを決め、前半は11－10でナショナルが逃げ切ったもののU－23の健闘が光った。

しかし、後半にはいると決定力に欠くU－23に対し、ナショナルチームは要所要所で着実に得点を重ね、ナショナルチームの2人退場という場面においても得点をするなど、格の違いをみせつけ、大勝した。

全日本 26（12－10、14－10）20 尚武(韓国)

前半、尚武のスローオフで、立ち上がり両チームとも雑な攻撃でチャンスをつぶした。得点が入ったのは3分後。13番チョ・ハン・ジュンのサイドシュートで尚武が先制した。日本は尚武の1－2－3ディフェンスを攻めあぐみ、10分まで4－2と尚武リード、その後5番冨本、4番佐々木のロング、13番藤本のポストで20分に逆転し、12－10と日本リードで前半終了。

後半にはいって10分までは尚武が13番チョ・ハン・ジュン、15番キム・ホンソンの連続速攻などで15－15の同点とするものの、日本のキーパー1番橋本が7メートルスロー2本を含む再三ノーマークシュートを止めた。20分までの10分間を7番パク・ソン・リプのロング1点におさえ、攻めては17番茅場ロング、3番森本の速攻、20番辻のサイドで着実にリードを広げ、26－20で日本が逃げ切った。

得点	全日本	番号	番号	尚武	得点
	坪根　敏宏	16	1	LEE SOON KIL	
	橋本　行弘	1	2	PARK MIN CHUL	2
	四方　篤	12	3	KANG KWANG JUNG	
2	高木　浩司	2	4	PARK KYUNG SOO	1
4	森本　彰宏	3	5	KIM SUNG HEON	2
5	佐々木教裕	4	6	JANG SUNG JIN	3
1	富本　栄次	5	7	PARK SUNG RIB	2
1	岩本　真典	8	8	KIM YOUG JIN	3
1	木浪　達文	9	9	YOO SUK JIN	3
1	末岡　政広	10	10	MOON JUNG HO	
	永山　強	11	11	KIM JONG PIL	
5	藤井　孝志	13	13	CHO HAN JOON	4
2	杉山　裕一	14	14	KIM YOUNG SIK	
1	茅場　清	17	15	CHANG JUN SUNG	
	山口　修	18	16	LEE SUNG HWAN	
3	辻　昇一	20	17	BANG JOO HYEON	
26			計		20

SCマクデブルク(ドイツ) 30（15－11、15－12）23 全日本U－23

ひとまわりも体格の小さいU－23に対して、高さ・パワーの勝るマクデブルクは試合開始早々、7番リクーの豪快なジャンプシュートで得点したが、U－23もすかさず4番中川のブラインドからのジャンプシュートで対抗、得点をあげた。その後、U－23はマクデブルクの高い打点からのジャンプシュートに苦しみながらも懸命にハンズアップするなど必死なディフェンスで失点をおさえた。また、オフェンスにおいては、スカイプレーや狭い空間に飛び込んでペナルティー、あるいは3番森山などのブラインドからのステップシュートにより得点を重ね、15－11とマクデブルクが前半をリードしたもののU－23が善戦した。後半に入ってもマクデブルクは豪快なジャンプシュートだけでなく、サイドシュートやポストシュートなど多彩かつパワフルな攻撃で得点を重ねたが、U－23も攻守ともに集中力が切れず、両チームとも最後

得点	U-23	番号	番号	SCマクデブルク	得点
	吉井　丈晴	1	1	MARCO STANGE	
1	池辺　健二	2	2	VIATCHESLAV ATAWIN	1
6	森山　透	3	3	VYGINDAS PETKEVICIUS	
3	中川　善雄	4	6	UWE MAEUER	4
2	荒尾　祐治	6	7	ROBERT-LOAN LICU	5
	窪小谷貴浩	7	9	GUERIK KERVADEC	4
4	田場　裕也	9	11	ERIK GOETHEL	1
2	荒木　誠司	10	12	HENNING FRITZ	
1	清水　祥二	11	14	STEFFEN STIEBLER	
	元村　東弘	12	15	TOMASZ LEBIEDZINSKI	6
	所　勉	13	19	JOEL ABATI	3
2	岩本　裕	14	20	STEFAN KRETZSCHMAR	6
2	田中　将	15			
	濱口　靖	16			
23			計		30

まで厳しい攻防を行った。結局マクデブルクが7点差で逃げ切ったもののU－23の健闘が光るゲームであった。

尚武(韓国) 28（16－13、12－13）26 全日本U－23

得点	U-23	番号	番号	尚武	得点
	吉井　丈晴	1	1	LEE SOON KIL	
1	池辺　健二	2	2	PARK MIN CHUL	4
3	森山　透	3	3	KANG KWANG JUNG	
3	中川　善雄	4	4	PARK KYUNG SOO	1
2	荒尾　祐治	6	5	KIM SUNG HEON	2
1	窪小谷貴浩	7	6	JANG SUNG JIN	6
11	田場　裕也	9	7	PARK SUNG RIB	4
	荒木　誠司	10	8	KIM YOUG JIN	
2	清水　祥二	11	9	YOO SUK JIN	3
	元村　東弘	12	10	MOON JUNG HO	
	所　勉	13	11	KIM JONG PIL	1
	岩本　裕	14	13	CHO HAN JOON	7
3	田中　将	15	14	KIM YOUNG SIK	
	濱口　靖	16	15	CHANG JUN SUNG	
			16	LEE SUNG HWAN	
			17	BANG JOO HYEON	
26		計			28

前半10分はU－23のGK12番元村のナイスセーブと9番田場のアンダーショット、ステップシュートなど多彩なシュートで5－3とU－23のペースとなったが、尚武も6番チャン、13番チョのロングが決まり、17分には一気に5－10とリードを広げた。前半終了間際にはU－23も追い上げて16－13と尚武リードで前半終了。後半ではU－23のディフェンスとGK元村のがんばりで9分には20－20の同点にするものの、反撃もここまで。尚武7番パクのロング、速攻、6番チャンのロングで26－20と再びリードを広げた。U－23も残り5分から9番田場のカットイン、15番田中のサイドなどで必死に追い上げたがわずかに及ばず、28－26で韓国が逃げ切った。

SCマクデブルク(ドイツ) 28（13－12、15－13）25 全日本

得点	SCマクデブルク	番号	番号	日本	得点
	MARCO STANGE	1	1	橋本　行弘	
2	VIATCHESLAV ATAWIN	2	2	高木　浩司	
6	VYGINDAS PETKEVICIUS	3	3	森本　彰宏	2
4	UWE MAEUER	6	4	佐々木教裕	
3	ROBERT-LOAN LICU	7	5	冨本　栄次	6
2	GUERIK KERVADEC	9	8	岩本　真典	4
	ERIK GOETHEL	11	9	木浪　達文	1
	HENNING FRITZ	12	10	末岡　政広	5
	SVEN LIESEGANG	13	11	永山　強	
1	STEFFEN STIEBLER	14	12	四方　篤	
2	TOMASZ LEBIEDZINSKI	15	13	藤井　孝志	1
3	JOEL ABATI	19	14	杉山　裕一	1
5	STEFAN KRETZSCHMAR	20	16	坪根　敏宏	
			17	茅場　清	2
			18	山口　修	1
			20	辻　昇一	2
28		計			25

立ち上がりから、体格に恵まれたマクデブルクのパワーあふれるプレーに対して日本も、一歩もひけをとることなく対抗し、パワフルな攻防のみられるゲームとなった。日本は、5番冨本らの活躍で出だしはリードしたが、16分45秒にはドイツが逆転。その後はお互いに譲らず、一進一退の攻防が続き、一点差のまま残り34秒となったところで日本はタイムアウトをとり、七人攻撃を仕掛けたが得点できず、そのままハーフタイムにはいった。

後半になるとマクデブルクは、ポストやサイドからのシュートで着実に得点を重ね、一時は三点差までリードをした。しかし、激しく接触しあう厳しいディフェンスのため、両チームとも退場者が続出するなか、マクデブルクは2番アタヴィンが失格処分を受けたのに対し、日本はゲームの流れを上手くつかみ、21分38秒同点に追いついた。しかし、大事な所で得点できない日本に対し、最後まで集中力のきれなかったマクデブルクが要所で得点を重ねて熱戦を制した。

【最終結果】

①SCマクデブルク(ドイツ)　3勝
②全日本　2勝1敗
③尚武(韓国)　1勝2敗
④全日本U－23　3敗

【女子】

全日本 31（15－12、16－9）21 広西選抜(中国)

前半の中盤では、中国広西選抜2番呉のポストシュート、キーパー毛の好セーブで追い上げられたものの、全日本が終始リードを保つ展開で進んだ。特に後半スタート10分間で、堅守、速攻からの藤浦、田中美音子・美代子コンビのスカイプレー、佐久川・青戸のシュートで勝敗を決めた。

広西選抜では、呉のポスト・サイドシュート、ゴールキーパー毛の好セーブが際立った。

得点	全日本	番号	番号	広西	得点
	山口　文子	16	2	呉　麗	6
	松尾　香代	1	3	劉　玉　英	1
	山下美智子	12	5	李　暁　嵐	2
5	田村　啓子	2	7	林　華　先	4
	隅　幸恵	3	8	盧　艶　嬌	2
	松本　恵美	6	9	劉　清　艶	4
2	青戸あかね	7	10	孟　萍	1
3	杉原　奈々	9	11	尤　秀　麗	1
7	田中美音子	10	12	毛　麗　紅	
3	田中美代子	11	13	何　成　芬	2
1	辻　賀奈子	13	15	李　劍　芳	2
	田口　順子	14	16	林　立	3
	田中由美子	15	18	李　道　芳	5
5	藤浦　美絵	17			
	浦田　芳江	18			
5	佐久川ひとみ	21			
31		計			21

VfBライプチヒ(ドイツ) 31（13－10、18－6）16 全日本U－23

得点	U-23	番号	番号	ライプチヒ	得点
	細谷　若菜	1	1	ミヒャエラ シャンツェ	
3	山口　美穂	3	2	ケルスティン ミュールナー	1
1	板谷　寛子	4	3	ザンドラ デーゲンハルト	2
	伊藤智絵美	5	4	グリート ユラック	9
1	村上　麻美	6	5	カローラ シスツェヴスキ	1
	大石　真代	7	6	マンディ ケルコッサ	1
4	村瀬　雅	8	7	ミヒャエッラ ザイェネフ	3
	西田由美子	9	8	ニコラ ピエッチュ	1
3	和田津由子	10	9	アンケ シュルツ	3
	田原ゆかり	11	10	ジルバーナ ダーテ	1
	堀内　裕生	12	11	イザベル ヘンカー	2
	岩切　織江	13	12	ペギー ブランデンベルガー	
3	中山　朋美	14	14	ドレーン ドレスラー	2
4	山田　永子	15	15	イングリーダ ラジェヴィチウテ	5
	藤井　裕子	16			
16		計			31

開始1分40秒、U－23 4番板谷がシュートを決めれば、その直後、ライプチヒ4番ユラックのシュートで得点。その後は、お互いに相手の出方を見ながらのゆっくりとした出だしのゲームとなった。日本は相手の細かいミスからの速攻や狭い空間からのカットインで得点を重ねゲームのリード権を握ったが、圧倒的な高さに勝るライプチヒが、豪快なジャンプシュートで得点を奪い、19分30秒で逆転。20分30秒には、ドイツ8番ピエッチェが2分間の退場をしたもののライプチヒの攻撃力は衰えず、前半は13－10でライプチヒがリードした。後半になっても勢いの衰えないライプチヒは着実に得点を重ねたのに対し、日本は得点チャンスをつくるもののGKシャンツェの素晴らしい好守に阻まれ得点を延ばすことができず、結局31－16でライプチヒが圧勝した。

VfBライプチヒ(ドイツ) 32（18－12、14－14）26 全日本

開始20秒、全日本が辻のサイドシュートで先制したが、ライプチヒもすぐにグリートのロングで応戦し、前半10分までに全日本が6－5とリードした。しかし、15分にミヒャエラのロングで追いつくと、イングリーダのポスト・カットインなどで連続得点し、ライプ

得点	全日本	番号	番号	ライプチヒ	得点
	松尾　香代	1	1	MICHAELA SCHANZE	
	田村　啓子	2	2	KERSTIN MUEHINER	
1	隅　幸恵	3	3	SANDRA DEGENHARDT	4
	松本　恵美	6	4	GRIT JURACK	3
	青戸あかね	7	5	CAROLA CISZEWSKI	3
1	杉原　奈々	9	6	MANDY KERKOSSA	2
3	田中美音子	10	7	MICHAELA SAJENEV	4
3	田中美代子	11	8	NIKOLA PIETZSCH	2
	山下美智子	12	9	ANKE SCHULZ	2
4	辻　賀奈子	13	10	SILVANA DATHE	2
5	田口　順子	14	11	ISABEL HENKER	1
	田中由美子	15	12	PEGGY BRANDENBERGER	
	山口　文子	16	14	DOREEN DRESSLER	
5	藤浦　美絵	17	15	INGRIDA RADZEVICIUTE	9
	浦田　芳江	18			
4	佐久川ひとみ	21			
26		計			32

チヒの6点リードで前半を終了した。後半にはいってディフェンスのよくなった日本が藤浦のポスト・佐久川のサイドで追い上げ、田中美代子のカットインで2点差としたものの、ライプチヒがイングリーダの連続得点で逃げ切った。

全日本U-23　26（13－9、13－9）18　広西選抜（中国）

開始早々、U－23は15番山田のジャンプシュート、3番山口の速攻からのカットインで連続得点をあげ、ゲームの主導権を握った。一方広西選抜は、15番李劍芳のジャンプシュートで得点をあげると、ライン際を守る低いディフェンスでU－23の攻撃に対抗、12番(GK)毛麗紅の好守などもあり、17分24秒には同点に追いついた。しかしU－23は、10番和田津由子のサイドを中心に、ポスト、フローターのカットインなどバランス良く得点を重ね、前半を13－9と広西選抜を突き放した。後半にはいり、広西選抜は一時、ディフェンスシステムを1－5にするなど変化をみせながら、オフェンスでは15番李劍芳のシュートなどで反撃したが、決定力を欠く広西選抜に対し、適時得点を重ねたU－23が広西選抜を突き放した。

得点	U-23	番号	番号	中国広西	得点
	細谷　若菜	1	2	呉　麗	4
4	山口　美穂	3	3	劉玉英	1
1	板谷　寛子	4	5	李暁嵐	
	伊藤智絵美	5	7	林華先	
1	村上　麻美	6	8	盧艶嬌	1
1	大石　真代	7	9	劉清艶	1
5	村瀬　雅	8	10	孟　萍	
	西田由美子	9	11	尤秀麗	
6	和田津由子	10	12	毛麗紅	
	田原ゆかり	11	13	何成芬	1
	堀内　裕生	12	15	李劍芳	8
	岩切　織江	13	16	林　立	
3	中山　朋美	14	18	李道芳	2
5	山田　永子	15			
	藤井　裕子	16			
26		計			18

VfBライプチヒ(ドイツ)　40（20－18、20－14）32　広西選抜（中国）

前半、中国のスローオフで試合開始立ち上がり10分はGK12番毛の好キープでペースをつかんだ中国が2番呉のポスト、11番尤のサイドシュートなど、ドイツの高いディフェンスの間をうまく攻撃して8－4とリード。中盤からドイツはさがりぎみのディフェンスで間を固め、相手ミスから5番カローラ、15番イングリーダの連続速攻で反撃、4番グリート、7番ミヒャエラのロングも決まりはじめ、20分には逆転に成功し、20－18とドイツ2点リードで前半終了。後半に入ってドイツ4番グリート、11番イザベルのロング、9番アンケのサイドシュートで引き離しにかかる。中国も15番李がロング、カットイン、7メートルスローと一人がんばったが、地力に勝るドイツが着実に点差をひろげ40－32で勝利をおさめた。

得点	ライプチヒ	番号	番号	中国広西	得点
	MICHAELA SCHANZE	1	2	呉　麗	6
	KERSTIN MUEHINER	2	3	劉玉英	
3	SANDRA DEGENHARDT	3	5	李暁嵐	
7	GRIT JURACK	4	7	林華先	
5	CAROLA CISZEWSKI	5	8	盧艶嬌	3
2	MANDY KERKOSSA	6	9	劉清艶	1
5	MICHAELA SAJENEV	7	10	孟　萍	
	NIKOLA PIETZSCH	8	11	尤秀麗	4
3	ANKE SCHULZ	9	12	毛麗紅	
1	SILVANA DATHE	10	13	何成芬	2
5	ISABEL HENKER	11	15	李劍芳	12
	PEGGY BRANDENBERGER	12	16	林　立	
3	DOREEN DRESSLER	14	18	李道芳	4
6	INGRIDA RADZEVICIUTE	15			
40		計			32

全日本　21（13－8、8－9）17　全日本U-23

開始直後から、両者ともにスピードある積極的なゲーム展開となったが、攻守ともに良く足の動くU－23が、高い位置からのディフェンスやGK16番藤井の好セーブなどでナショナルの攻撃をかわして速攻から得点し、ゲームの主導権を握った。一方ナショナルは、10番田中を中心としたプレーでU－23のディフェンスを崩し、ステップシュートやポストシュートなど巧みなオフェンスで徐々にペースを取り戻し14分57秒には同点とした。たまらずU－23は、10番田中にマンツーマンをつけたものの、ディフェンスの動きが鈍りはじめたU－23に対してナショナルは6番松本を中心とした落ち着いたプレーで得点を重ね、前半は13－8でナショナルのリードで折り返した。後半に入りU－23は、もとのディフェンスシステムに切り替えると、9分38秒には3連続得点で2点差まで詰め寄った。しかし、その後はお互いに細かいミスが目立ち、U－23は健闘したものの、結局ナショナルが前半の得点差を守って勝利した。

得点	全日本	番号	番号	U-23	得点
	松尾　香代	1	1	細谷　若菜	
3	隅　幸恵	3	3	山口　美穂	
3	松本　恵美	6	4	板谷　寛子	5
1	青戸あかね	7	5	伊藤智絵美	
	杉原　奈々	9	6	村上　麻美	1
8	田中美音子	10	7	大石　真代	
	山下美智子	12	8	村瀬　雅	4
1	辻　賀奈子	13	9	西田由美子	
1	田口　順子	14	10	和田津由子	4
	田中由美子	15	11	田原ゆかり	
	山口　文子	16	12	堀内　裕生	
2	藤浦　美絵	17	13	岩切　織江	
	浦田　芳江	18	14	中山　朋美	
2	佐久川ひとみ	21	15	山田　永子	3
			16	藤井　裕子	
21		計			17

【最終結果】

①VfBライプチヒ(ドイツ)　3勝
②全日本　2勝1敗
③全日本U－23　1勝2敗
④広西選抜(中国)　3敗

親善試合結果

ジャパンカップ開催前と開催後に、今大会に参加した外国チームと日本リーグ加盟チームとの親善試合が実施された。以下にその結果を紹介します。

(男子)

［8月26日／知立市体育館］
マクデブルク　31－24　トヨタ車体

［8月27日／東海市体育館］
マクデブルク　30－24　大同特殊鋼

［9月1日／大崎電気体育館］
韓国尚武　27－25　大崎電気

［9月2日／等々力アリーナ］
マクデブルク　24－22　中村荷役

(女子)

［8月24日／金沢市総合体育館］
北国銀行　30－30　ライプチヒ

［8月25日／三協アルミ体育館］
立山アルミ　29－24　ライプチヒ

［8月26日／金沢市総合体育館］
大和銀行　28－28　ライプチヒ

［9月2日／大崎電気体育館］
大崎電気　31－30　中国広西選抜

［9月3日／日立栃木体育館］
日立栃木　30－28　中国広西選抜

'97ジャパンカップ 熱戦グラフ



マクデブルクのペトケビチウス選手に試合ごとの優秀選手賞を手渡す佐分副実行委員長



全日本対マクデブルク戦



全日本の"守護神"橋本行弘選手



ライプチヒ、ケルスティン・ミュールナーの豪快なシュート



全日本対尚武戦。全日本・宮本のシュート



女子最優秀選手に選ばれたライプチヒのグリート・ユラック選手



女子全日本対ライプチヒ戦。藤浦美絵選手のカットイン



全日本対尚武戦。尚武キム・ヨン・ジン選手のカットイン

'97 ジャパンカップ 出場チーム 選手名簿

全日本U-23[男子]

監督	松井 幸嗣
コーチ	松 喜美夫 高橋 精一 玉村 健次

No.	氏名	所属先名	生年月日	身長
1	吉井 丈晴	日本大学	1976.10.28	182
12	元村 東弘	三陽商会	1974.12.23	186
16	濱口 靖	大崎電気	1975. 1.23	186
2	池辺 健二	本田技研	1974. 9.19	192
3	森山 透	湧永製薬	1974. 8. 6	172
4	中川 善雄	三陽商会	1974. 8. 9	180
5	荒尾 裕治	大崎電気	1974. 8.28	172
6	窪小谷貴浩	日本体育大学	1978. 8. 7	195
7	田場 裕也	日本体育大学	1975. 9.12	182
8	荒木 誠司	本田技研	1974. 4.16	172
9	清水 祥二	トヨタ車体	1974. 6.21	184
10	所 勉	早稲田大学	1977.11. 7	173
11	岩本 裕	国士舘大学	1975. 6.21	187
13	田中 将	日本体育大学	1976. 1. 7	172

全日本[男子]

男子団長	津川 昭
監督	蒲生 晴明
コーチ	酒巻 清治

No.	氏名	所属先名	生年月日	身長
1	橋本 行弘	本田技研	1965. 9.17	185
12	四方 篤	本田技研	1972. 5.12	190
16	坪根 敏宏	湧永製薬	1973. 6. 4	187
2	高木 浩司	中村荷役	1967. 9. 7	181
4	佐々木教裕	日本体育大学	1974. 4. 8	190
5	富本 栄次	大同特殊鋼	1971.10.18	182
8	岩本 真典	三陽商会	1970. 9.28	200
10	末岡 政広	大同特殊鋼	1967. 9. 1	177
11	永山 強	大崎電気	1971. 9. 9	178
13	藤井 孝志	大同特殊鋼	1969. 7.27	188
14	杉山 裕一	湧永製薬	1972. 9.21	190
17	茅場 清	本田技研	1973. 7. 8	185
18	山口 修	湧永製薬	1972. 2.18	192
20	辻 昇一	大崎電気	1973. 5.10	183
3	森本 彰宏	大崎電気	1970.12.23	183
9	木浪 達文	中村荷役	1971.10.30	188

全日本[女子]

女子団長	緒方 嗣雄
監督	樫塚 正一
コーチ	西窪 勝広

No.	氏名	所属先名	生年月日	身長
1	松尾 香代	ジャスコ	1972. 4.13	171
12	山下美智子	大和銀行	1976. 1. 5	177
16	山口 文子	オムロン	1975.10.22	172
2	田村 啓子	オムロン	1972. 9.29	166
3	隅 幸恵	オムロン	1977. 3.21	165
6	松本 恵美	日立栃木	1973. 7. 6	172
7	青戸あかね	イズミ	1974. 7.11	164
8	硲 美樹	ブラザー	1974.11.20	175
9	杉原 奈々	オムロン	1973. 4. 9	158
10	田中美音子	大和銀行	1975. 1.14	160
11	田中美代子	北国銀行	1975. 1.19	167
13	辻 賀奈子	ジャスコ	1975. 2.13	162
14	田口 順子	日本体育大学	1975. 9.26	167
15	田中由美子	北国銀行	1975. 7.25	176
17	藤浦 美絵	大和銀行	1975.12.19	171
21	佐久川ひとみ	大崎電気	1977. 7.21	161

SCマクデブルク(ドイツ)[男子]

ヘッド・コーチ	LOTHAR DOERING
サブ・コーチ	PETER ROST
スポーツ・ドクター	BIRGIT HOFFMEYER
トレーナー	KATI BOHMEIER
会長	REINHARD SCHUETTE

No.	氏名
1	MARCO STANGE
2	HENNING FRITZ
3	VYGINDAS PETKEVICIUS
4	UWE MAEUER
5	ROBERT-LOAN LICU
6	ERIK GOETHEL
7	SVEN LIESEGANG
8	STEFFEN STIEBLER
9	TOMASZ LEBIEDZINSKI
10	STEFAN KRETZSCHMAR
11	GUERIK KERVADEC
12	JOEL ABATI
13	VIATCHESLAV ATAWIN

尚武(韓国)[男子]

団長	KIM HO IL
監督	LEE KYU JUNG
コーチ	CHO YOUNG SHIN
主将	CHOI YOUNG SEOL

No.	氏名	生年月日	身長
1	LEE SOON KIL	1973. 5. 6	187
2	PARK MIN CHUL	1974.12.23	191
3	KANG KWANG JUNG	1974. 4.12	177
4	PARK KYUNG SOO	1974. 3.20	176
5	KIM SUNG HEON	1974. 9. 2	187
6	JANG SUNG JIN	1973. 5.20	175
7	PARK SUNG RIB	1973. 9.18	190
8	KIM YOUG JIN	1973. 4.19	184
9	YOO SUK JIN	1972. 9.23	176
10	MOON JUNG HO	1974.10.26	188
11	KIM JONG PIL	1974. 9. 2	180
12	CHO HAN JOON	1973. 7.28	181
13	KIM YOUNG SIK	1973. 3. 4	170
14	CHANG JUN SUNG	1974. 8.24	186
15	LEE SUNG HWAN	1973. 6. 9	182
16	BANG JOO HYEON	1974.11.16	184

VfBライプチヒ(ドイツ)[女子]

ヘッド・コーチ	MAIK NOWAK
サブ・コーチ	JOCHEN HOLZ
トレーナー	SANDRA FIEDLER
ハンドボール部・部長	AXEL EHRHARDT

No.	氏名
1	MICHAELA SCHANZE
2	PEGGY BRANDENBERGER
3	CAROLA CISZEWSKI
4	GRIT JURACK
5	MICHAELA SAJENEV
6	INGRIDA RADZEVICIUTE
7	KERSTIN MUEHINER
8	SILVANA DATHE
9	MANDY KERKOSSA
10	SANDRA DEGENHARDT
11	ISABEL HENKER
12	ANKE SCHULZ
13	NIKOLA PIETZSCH
14	DOREEN DRESSLER

中国広西選抜[女子]

団長	陳 璉 林
ドクター	劉 穎
総監督	丁 愛 宝
監督	胡 衛 東
コーチ	寶 銘

No.	氏名	生年月日	身長
2	呉 麗	1976. 1.16	173
3	劉 玉 英	1966.12.25	170
5	李 暁 嵐	1976. 9. 4	173
7	林 華 先	1976. 3.13	175
8	廬 艶 嬌	1973. 5.27	173
9	劉 清 艶	1973. 9.10	176
10	孟 萍	1973. 3.27	175
11	尤 秀 麗	1973. 1.26	170
12	毛 麗 紅	1974. 1. 6	178
13	何 成 芬	1972.12. 6	176
15	李 劍 芳	1972.12.16	170
16	林 立	1975. 6.25	175
18	李 道 芳	1973. 6.23	169

全日本U-23[女子]

監督	水上 一
コーチ	笹倉 清則 池ノ上孝司

No.	氏名	所属先名	生年月日	身長
1	細谷 若菜	日本体育大学	1977. 7.14	174
12	堀内 裕生	日本女子体育大学	1978. 2.19	172
16	藤井 裕子	日立栃木	1974. 4. 9	169
3	山口 美穂	東京女子体育大学	1975. 9.29	170
4	板谷 寛子	東京女子体育大学	1977. 3.25	168
5	伊藤智絵美	日本体育大学	1976.11.23	170
6	村上 麻美	筑波大学	1977. 7.31	167
7	大石 真代	武庫川女子大学	1976.12. 7	170
8	村瀬 雅	大阪体育大	1976. 5.28	176
9	西田由美子	大阪教育大	1976. 6.11	168
10	和田津由子	北国銀行	1974. 6.11	157
11	田原ゆかり	ソニー国分	1976.12.17	152
13	岩切 織江	ソニー国分	1977. 1. 1	156
14	中山 朋美	日立栃木	1974. 4. 9	162
15	山田 永子	筑波大学	1979. 1. 3	160

女子ジュニア世界選手権に参加して

佐野　和夫



'97男子ハンドボール世界選手権大会が5月中旬から6月1日にかけて熊本市を中心に行われた。日本チームの素晴らしい活躍を見ることが出来ると同時に世界のトッププレイヤーの動きや、私たちがたやすく見聞できない激しい攻防など身近に接し、驚きと興奮がいまだに残っている。

　今年の当初にＩＨＦの行事予定とスタッフの紹介された資料により、熊本の男子に続いて、7月下旬から8月中旬にアイボリーコーストで女子のジュニア世界選手権大会、8月下旬から9月初旬にトルコでジュニア男子、11月下旬から12月にはドイツにて女子の世界選手権大会と4つのワールドカップが行われることは承知していたが、熊本に次いで、アフリカ西海岸のアイボリーコーストの女子ジュニア大会に私が参加することになろうとは夢にも思わなかった。

　日本では8月に集中して多くの大会が行われ、最も多忙な時期であり、私の関わる各大会の関係者に事情を了承していただき、何の心配もなく参加出来ることになった。各位には感謝申し上げたい。

　さて、全日本女子ジュニアのスタッフ、プレイヤーの情報については昨年から日本協会の会議資料で紹介されていたが、井上監督、平賀・志賀両コーチ、阪田ドクター、垰（タオ）トレーナーと通訳兼世話係の岩崎さんという素晴らしいスタッフ、14名のプレイヤーと初顔合わせをしたのが、関空から出発する前日であった。このことは一つの問題点とも言える。

　アフリカ西海岸、アイボリーコースト・アビジャン市までは長旅であった。大会開催日の2日前に到着して調整し中国とのオープニングゲームを待った。監督、コーチ陣の配慮は素晴らしかった。

　女子ジュニアの参加国は20であるはずだったが、3カ国（アルゼンチン、ウクライナ、ベラルーシ）が棄権したため、4つのグループ分けが変則であった。日本はＣグループに入り中国、ロシア、スロバキアと予選リーグを行うことになった。緒戦の中国には全員が一つになって、闘志、動きともによく、後半の中頃には中国に逆転するポイントを挙げ、まず第1戦を制した。チーム編成後2年にわたり精神面、体力、技術、戦術等、多岐に指導された監督、コーチの意図するところを選手が理解し各自が全てを出し切ったことが勝因であった。何度も優勝している強豪ロシア、欧州代表のスロバキアなど、いずれも体格差は大きかったが、闘志や動きでは決して劣ってはいなかった。特に対スロバキア戦では1点差の惜敗であった。Ｃグループ3位で、決勝トーナメントに進み、Ｄグループ2位のトルコと対戦した。ゲームの流れの中では数点の差をつけられたりしたが、最後まで闘志を燃やし、全ての動きで体格面のハンデを補って勝利を掌中におさめた。この勝利で女子ジュニアとして世界のベスト8を獲得するという画期的なことを成し遂げたと言える。この時の感激は私にとって大きな記念となった。

　アフリカ西海岸のアイボリーコーストは素敵な大西洋沿岸の避暑地という情報と赤道直下で常に暑い国、１９６０年にフランスの植民地から独立した国と聞いていたが、私たちのゲームの行われたアビジャン市は大きな街であって、思ったより涼しかった。街の中では貧富の差が大きく感じられた。この遠隔地で、日本の大使ご夫妻、大使館員の方々、在留日本人の方々には食事会や、各ゲームに日の丸や太鼓で応援していただき、全員大いに勇気づけられました。心からお礼を申し上げます。

　ＩＨＦでは8月よりルール改正を行って、この大会から実施するとの通達を出していましたが、世界の公式戦で初のゲームを行った日本チームでしたが、何の躊躇もなくゲームの展開に入っていけた。

　今大会に参加し多くのことを経験し学んだ。今後、対応すべき事柄についていろいろ考えているが、最後に言うべきことは、日本チームはゲームを行う度に外国チームに対して強くなっていったことです。



大健闘を見せた女子ジュニアチーム

帯同メディカルレポート

産業医科大学・整形外科
阪田武志



【はじめに】

平成9年7月29日～8月10日までコートジボワール（アフリカ）のアビジャンとヤムスクロの2都市で第11回女子ジュニア世界選手権が開催された。当初20カ国の参加予定であったが、3カ国が棄権し、結局17カ国による大会となった。ナショナルチームとしては、男女を通じて初のベスト8進出を果たし記念すべき大会となった。今回は初のアフリカ大陸（エジプトを除く）での世界選手権ということであったが、とにかく事前のアフリカに関する情報量が少なく、メディカルスタッフとしてもいろいろと苦労させられることが多かった。以下、現地での苦労話を含めメディカルチェック、アフリカ対策、大会中のケア、ドーピング等について報告する。

【メディカルチェック】

CP11名中8名までが陳旧性の足関節外側靭帯損傷（ATFL、ATFL&CFL）を有していた。巽選手（両側ともⅢ°）を除いてはⅠ～Ⅱ°の損傷であった。また、GKの吉田、飛田両選手が陳旧性の右大腿直筋肉離れを有しており、ストレッチ指導及びテーピングで対処した。菅谷選手の腰椎分離症の他、4名に筋・筋膜性腰痛症を認め、トレーナーによるマッサージを処方した。また、穂積選手の右反復性肩関節亜脱臼、山下選手の左肩周囲の筋過緊張（広背筋、上腕三頭筋）と2名に肩障害がみられた。幸い、ジェネラルコンディショニングに関しては全員良好であった。

【アフリカ（感染症）対策】

選手の外傷等に関しては、トレーナーも帯同してくれたので、あまり心配していなかったが、とにかく現地での感染症、寄生虫に対しては帯同ドクターとして非常に気を使った。一番困ったのは、現地での医療事情、風土病等の情報が極めて入手しづらかったことであった。今回の遠征中本当にお世話になったエモックエンタープライズからいただいた資料とインターネットを利用して得た情報から、最も注意すべきは熱帯熱マラリアであることはわかっていたが、予防薬、治療薬とも日本では入手できず、現地での購入となった。予防接種も含め、今後の参考にもなると思われるので、以下実際行ったことを列記する。

（1）日本出国前の少なくとも10日前に黄熱病予防接種を検疫所で施行。

（2）現時点で熱帯熱マラリアの耐性が最も少ないと考えられているメファキン（Ｍｅｐｈａｑｕｉｎ）を現地（コートジボワール）で購入し一錠（２５０mg）を1回／週の割合で滞在中2回投与した。また、ムシペール等防虫スプレーを使用し、外出時はできるだけ長袖長ズボンを着用することとした。

（3）ハエ・ウジ病（衣服等にハエが卵を産み、それを着たヒトの皮膚からウジがわく病気）対策として、洗濯した衣服は絶対に室内に干すようにした。（アイロンをかければなおよい）

（4）生水、生肉、生野菜（フルーツは皮をむけばＯＫ）は口にしないようにした。

（5）イソジンによるうがいを励行した。

特に（2）に関しては、現地の在留邦人（約200名）の方々も予防薬を服用してもなお毎年数名が熱帯熱マラリアに感染しているということであった。今回、山下選手が大会途中より高熱（39℃前後）を出し、数日続いたため、大使館医務官の田口先生の協力で血液検査を施行したが幸いnegativeであった。

また、（3）についても本当にある病気だそうで、現地の日本人は誰も外に衣服を干さないとのことだった。

【大会期間中のケア】

今回のチームのCPの平均身長、体重は165cm、61kgと大会参加国中一番小さかった。一方、ロシアをはじめ各国共175～180cm、75kgクラスの選手を揃えており、特にフローター3人は180～185cmといった国が多い中で、日本が互角に戦うためにはアタックディフェンスをかけざるを得ず、必然的に試合を重ねるごとに負傷者が続出した。そのほとんどが打撲、筋挫傷であった。中でも、センターで司令塔の稲吉選手が相手の膝で両大腿四頭筋々挫傷（特に左側）を負った際、疼痛・腫脹とも高度であり次からの試合に出場させるか迷ったが、筋陥凹が認められなかったこと、本人の出場への意志が強かったことからテーピング等で対処し何とか試合に出てもらった。他に疲労からくる腰痛、下肢の筋肉痛を訴える選手が続出したが今回帯同していただいた垰トレーナーが練習・試合前のテーピング、終わった後のアイシング、マッサージ等を連日本当によく処置してくれたおかげもあり、どの選手も大事に至らず何とか全日程を終えることができた。また、ノルウェーとスイスチームがゲームのない日は、ホテルのプールで水中エアロビクスを利用して疲労回復をはかっていたのが興味深かった。

【ドーピングについて】

大会前の合宿中に西山逸成先生（医科学委員長）が、選手・スタッフに対してドーピングについてお話してくださっていたので、大会前のドーピングに対する意識、知識とも非常に高く本当に助かった。実際には選手の持参している薬を全部提出させ、問題のない物だけ自由に使用してもらった。他は、全て必要な時に必要なだけドクターが処方した。大会期間中、穂積、山下両選手のアレルギー性皮膚炎に対しリンテロンVG軟膏（ステロイド含）を使用した際、その都度試合前にMedical Notification Formに必要事項を記入しMedical Committee（医事委員会）に提出した。日本選手にはドーピング検査は結局施行されなかった。Medical Committeeの責任者に直接聞いた話では、今大会中、1/8 Final～Final1にかけて10回（10選手）のドーピング検査を行ったとのことで、その内訳はトルコ、スイス各1回、ロシア、ルーマニア、ノルウェー、デンマーク各2回であった。

【最後に】

アフリカ・コートジボワールという本当の意味で未知の国で開催された大会であったが、全員無事に日本に帰国できたことを私自身素直に喜んでいる。

最後に、今回一緒に仕事をさせていただいた佐野団長をはじめ、井上監督、平賀、志賀両コーチ、垰トレーナー、通訳兼マネージャー的存在だったエモックの岩崎さん、そして現地で本当にお世話になった大使館員をはじめとした在留邦人の方々に誌面をお借りしてお礼申し上げます。

帯同メディカルレポート

濱脇整形外科クリニック・スポーツトレーナー　垰　真由美



1997年、7月28日より8月10日まで、アフリカ、コートジボワール共和国のアビジャンという都市で二つの会場に分かれ、第11回ハンドボール全日本女子ジュニア世界選手権大会が開催された。登録された国は17カ国であった。

我々メディカルスタッフは、7月26日から遠征に合流参加した。27日到着後、まずトレーナーサイドで、翌日28日ドクター（産業医大の阪田武志医師）と共に、メディカルチェックを行った。

メディカルチェックの内容として、1.概応歴のチェック、2.現在の体調のチェック、3.月経のチェック、4.現在使用している薬物のチェック、5.今後のケア等について、などを中心に行った。

遠征中の選手の状態としては、腰痛、下腿疾患も持つ選手が多か

適用部位	
部位	件数
手首	2件
手関節	2件
肘関節	2件
大腿部	3件
膝関節	1件
下腿部	2件
足関節	6件
計	18件

テーピング使用種類	
種　類	本　数
ホワイト38	12
EB-75	10
EB-50	45
キネシオ　50	15
EB-(H)	20
アンダーラップ	4
その他	
粘着スプレー	1
リムーバースプレー	1
コールドスプレー	1
ブルーキック	1

った。腰痛の中でもS選手は分離症があり、下肢症状も生じていた。S選手においても、他の腰痛、下腿疾患を持つ選手においてもマッサージ及びストレッチを体育館及び、宿舎で入念に行った。

足関節捻挫を生じた選手の中で、特に足関節のルーズだったM選手は、練習中に再度捻ったが、その際アイシング→テーピング固定（全てホワイトで完全固定）→アイシング→歩行→アイシング→歩行、ジョッグ→アイシング→テーピング(伸縮含んだ固定)→ランニング→ジャンプ、ステップと順に行っていき練習に復帰することができ、試合参加も可能であった。

試合中に大腿部を受傷した（肉離れ）I選手は、受傷時、ROM制限がかなりあり、歩行困難となった。I選手はゲーム参加を目的とし、翌日の練習時間において、別メニューでROM－EX、次いで筋の再訓練を行った。体育館及び宿舎でのケアを入念に行い、テーピング固定でゲーム参加は可能であったが、各自のチームに戻ってからは、まずドクターの指示を受け治療し、練習前後のケア（ウォーミングアップ時のストレッチ及びテーピング、クールダウン時のストレッチ及びアイシング等）をしっかり行っていただきたいと思う。その他の損傷及び練習、試合時の外傷等においても練習、試合の前後のテーピング、アイシング、ストレッチ、マッサージ等のケアによりプレイ可能であった。

開催地がアフリカということもあり、体調を崩す選手も少なくなかった。その中でも、Y選手は8月に入り、前進の蕁麻疹及び39℃前後の高熱を生じた。ドクターサイドにより点滴、坐薬等を行い、現地特有の疾患（マラリア等）の検査を現地のドクターに依頼した結果、その心配はないと判断された。その後ゆっくりと解熱していき関節痛を訴えるものの、経過は少しずつ回復した。

ケアを行っていく上で問題だったのはアイシングだった。試合会場にはアイスの設置を依頼したが最終日まで用意してもらえず、宿舎より持参するしかなかった。しかし、宿舎にも少量しかなく、その上会場まで移動時間が約20分かかり少しでも溶けない工夫が必要であったため、氷に塩を加えた。これは、思った以上の効果があり、アイスが全くなく困ったという状態はなかった。

テーピングにおいてはトレーナーサイドより多めにテーピングを持参した結果、不足で困るということはなかった。遠征期間中に使用したテーピングは、別表の通りである。

スタッフの方々、現地の日本大使館の方々の援助により、開催地の環境を考えるとメディカルスタッフとしては、スムーズに進められたのではないかと思う。

大会の結果はBEST8で日本チーム初の好成績を残すことができた。

最後に、日本協会、佐野団長、井上監督、志賀コーチ、平賀コーチ、岩崎通訳、そして日本大使館の方々をはじめ、現地の方々にも多くのご協力をいただき、大変力強いものがありました。心より感謝いたします。また、今回の遠征は私にとって大変貴重な経験となりこのような機会を得られたことをうれしく思います。ありがとうございました。

第2回ジャパンオープンハンドボールトーナメントを終えて

神奈川県ハンドボール協会　理事長　川辺　孝夫



8月7日から8月10日まで、横浜市（男子の部）・川崎市（女子の部）で行われた大会も無事終了することができました。関係の皆様に厚くお礼申し上げます。

昨年度初めて始まったこの大会も、2回を迎えてようやく位置付けがはっきりしてきたように思われます。大同、日新などの日本リーグOB勢に、香川、静岡、かながわガビアーノなどの教員チームも参加し大会が盛り上がりました。

昨年度は大阪に視察に行かせていただきましたが、練習会場の件で大変困ったそうです。今年も多分そうなるだろうと思っていたところ、各練習会場とも連日の満員で、半面しか用意していなかった会場ではクレームもついたようです。参加選手がそれなりの意識を持って本大会に参加しているとの印象を強く持ちました。

大会そのもののレベルもかなり向上したと思われます。特に男子の決勝に進出した、香川クラブと福島クラブは、スピード、テクニックもあり、見ごたえのある試合を展開してくれました。来年度の「かながわ・ゆめ国体」を控えて、開催市の役員、ボランティアの市民の方々にはハンドボールを理解するきっかけになったと思います。また女子では開催県の「かながわガビアーノ」が地元の方々の熱い応援を得て優勝することができてたいへんうれしく思いました。

なにぶん新しい大会ですので、運営面でも手探り状態で、参加選手、役員、関係機関にもご迷惑をかけるばかりで心苦しく思っております が、これも来年の本国体のための勉強と思っております。

最後に、日本協会に苦言を呈したいと思いますが、この時期（8月上旬）は各種の全国大会が一斉に開かれております。大会時期、審判配置、参加資格等で問題が起きないように各種別間の調整をしっかりやっていただけたらありがたいと思います。また全日本総合の出場権についても、1チームなのか上位なのかはっきりさせていただければと思います。

色々ありましたが、本協会としても大いに勉強させていただき誠にありがとうございました。本協会といたしましても、来年度の「かながわ・ゆめ国体」に向けて着実に準備を進めているところでございます。今回至らぬ点はご容赦していただき、来年度はもっと気持ち良くプレーが出来るようにしたいと思っております。日本協会を始め関係各位には失礼とは存じますが書面をもって厚くお礼申し上げます。また選手の皆さんには、来年再び神奈川でお会い出来ることをお祈りして、ご報告を終わらせていただきます。



香川クラブ 加藤選手のポストプレー

■男子3位決定戦

大同クラブ 22（13−7 / 9−13）20 日新製鋼呉鉄球会

〔大同ク〕得点	氏名	〔日新呉〕氏名	得点
0	柳川清	藤本	5
0	柳川実	千葉	4
4	内藤	山崎	1
5	市川	堀田	4
0	大原	一瀬	0
0	更谷	小林	2
0	久米	勝本	1
3	海江田	佐伯	3
0	上村	木村	0
3	横浜		
5	名取		
2	佐藤		
22	計		20

激突はスローペースで前半から15分までは1点を争うシーソーゲーム。大同は内藤のポストシュートに名取、市川の果敢なスピードプレーが続き、攻撃的なディフェンスからの早い展開、どこからでも点のとれるチームプレーを見せる。13対7とリードを奪って前半を終える。しかしこれで目が覚めた日新は黙ってはいない。持ち味の速攻から佐伯、堀田らで活路を開き、連続得点をあげて、一気においつめ、手を休めることなく快調に飛ばし、16分同点においついた。1・2点の僅差の緊迫した中、リバンド、ルーズボールからの根強いディフェンス展開で大同が逃げ切った。

■男子決勝

香川クラブ 29（14−14 / 15−11）25 福島クラブ

〔香川ク〕得点	氏名	〔福島ク〕氏名	得点
0	高木	越智	0
3	加藤	益崎	5
11	田中	小林	4
4	後藤	小澤	2
5	高畠	工藤	4
0	高尾	円羽	0
4	河合	小俣	3
2	平田	石井	1
0	増本	矢作	1
0	泉谷	新方	5
0	正木	糸井	0
		高橋	0
29	計		25

後藤のポストシュートで先制した香川クラブだが、福島クラブの固いディフェンス、GK越智の好守などで得点が続かない。一方の福島クラブは速攻を主体に前半10分までに6−3とリードを広げた。ここで香川はGKを交替、その後は一進一退の攻防が続き、14−14で前半を終了。後半2点を先取した香川に対し、福島は工藤が立て続けに退場処分を受け、点差が開き始め、後半20分では得点差も6点となり、その後の福島の反撃を振り切った香川が29−25で快勝した。大事な場面での決定力の違いが勝敗を分けた。


かながわガビアー 梶田選手

■女子3位決定戦

自衛隊体育学校 26（13−6 / 13−10）16 宮崎クラブ

〔自衛隊体〕得点	氏名	〔宮崎ク〕氏名	得点
0	今井	谷口	0
3	高嶺	新坂	3
0	小林	内村	5
3	麻生	中山	2
3	山岡	東郷	1
3	久保	染矢	0
6	本郷	川野	2
5	上野	畠中	3
3	森下	下池田	0
0	小林	岩切	0
0	西木場	荒木	0
		谷口	0
26	計		16

前半、立ち上がりは宮崎クラブが2点を先取するが、自衛隊体育学校は速攻で得点を重ね、13対6で終了する。後半、自衛隊体育学校2番高嶺のポストへのパス、ステップシュートにより着実に得点を重ね、追いすがる宮崎クラブをつき離した。

■女子決勝

かながわガビアーノ 17（7−8 / 10−8）16 メガトンズ

〔かながわ〕得点	氏名	〔メガトンズ〕氏名	得点
0	荒川	水口	0
3	小暮	広瀬	2
2	柳原	市来	5
3	児玉	岡村	2
0	小澤	一枝	0
0	清水	西村	1
1	村上	白鳥	4
2	福島	北田	2
3	阿部		
3	梶田		
17	計		16

前半開始よりメガトンズはカットイン・ポスト攻撃に対し、ガビアーノはディフェンスの足が動かず得点を許す。ガビアーノはノーマークチャンスをつくりながら、GK水口に阻まれリズムに乗れずロースコアでメガトンズリードで終了。後半3連取で調子を取りもどし足が動いてきたガビアーノに対し、連戦の疲れが残りながら市来、白島を中心とした個人技で一進一退のゲームが続いた。22分ガビアーノ柳原のカットインから3連取でゲームが決まったかにみえたが、メガトンズ最後の粘りをみせたが一歩およばず涙をのんだ。両チーム特徴が見えた良いゲームであった。

全日本男子チーム監督に就任して

『M²S²』

全日本男子ハンドボールチーム監督
蒲生晴明



「MAKE MAJOR
SOMETHING SPECIAL」

以上をキャッチフレーズに全日本男子ハンドボールチームの監督として再び就任致しました。熊本での世界選手権大会が、我が全日本男子チームの大活躍で成功裡に終了しましたが、全日本チームは、一つの節目を通過したばかりであります。全日本チームは永久に継続していく訳であり、節目が終われば次の節目を探し、それに向かって進んで行きます。今回、再び監督を任され、以前にまして責任の重大さを感じているところです。

さて、前記キャッチフレーズを基に悲願であります2000年シドニーオリンピックに12年振り出場を最大のターゲットとして前進していきます。

この『M²S²』は、世界選手権での全日本チームの活躍が、マスメディアに数多く取り上げられ、従来のハンドボールのイメージから新しいハンドボールのイメージへの転換となって「メジャーへの扉」をノックしたと思っています。したがって、今後はこの状況を継続・拡大し、メジャーへの扉をオープンしていくということが「MAKE MAJOR」です。

では、世界選手権での全日本チームの活躍が基準とすれば、それ以上を目指すには今一歩違った、あるいは従来にない何かを企画・立案・実行することが必要であり、成果を上げることがさらに重要です。その意味から言えば、大型化を実現できた全日本男子チームに鋭いスピードあるいは独創的な個人技をプラスする事でステップアップは、可能と判断し「SOMETHING SPECIAL」を代名詞にしたわけです。

MAKE MAJOR SOMETHING SPECIAL

①1998　アジア大会　金メダル（BEST4以上）



1999　世界選手権（エジプト）出場権獲得



同　　7位以内入賞



2000　シドニーオリンピック出場権獲得

②1999　第9回アジア選手権　金メダル
（日本での開催を切に切に希望する）



2000　シドニーオリンピック出場権獲得

いずれにしても、シドニー出場としての条件は、上掲の通りである。

上記2回のチャンスを実現すべく全力を尽くす所存です。どうか、日本ハンドボール界の皆様には今後も熊本世界選手権でのご支援以上のバックアップをお願い致します。

京都の夏

インターハイを終えて

京都府高等学校体育連盟ハンドボール専門部委員長
堀田　靖人

8月1日から7日まで、平成9年度全国高等学校総合体育大会高松宮賜杯第48回全日本高等学校ハンドボール選手権大会が、八幡市・京田辺市において開催されました。

平成6年7月に競技開催地として両市が決定され、翌年8月に府内で唯一合同実行委員会を設置し、大会開催に向け本格的準備作業を進め始めました。両市とも1988年の京都国体で同競技を実施し、国体以降もハンドボール競技には強い関心を持って振興に務めていただいております。

本年は、八幡市が市制移行20周年目の年、また京田辺市は平成9年4月1日より田辺町から京田辺市へと市制移行がなされた記念すべき年に、ハンドボール競技を両市で開催できましたことは専門部におきましても光栄でした。

競技は、「風にのれ　君の声援君の汗」のスローガンのもと全試合体育館を競技会場に開催しました。男子のメーン会場を八幡市民体育館、女子のメーン会場を田辺中央体育館として、3位表彰式・閉会式も男子会場・女子会場と初の分散方式で実施しました。開会式については、選手の行進人数を7名に制限し八幡市文化センター大ホールで行いました。従来だとプラカード係の生徒の体力を心配する必要がありましたが今回はその必要はなく、一般観客等の観覧席スペースが狭くて大変ご迷惑おかけしました。

試合は春の優勝校、男子・久留米工大附属(福岡)、女子・宣真(大阪)の春夏連覇なるか。男子の準決勝は、連覇をねらう久留米工大附属と2度目の決勝進出をかける北陸(福井)との対戦。お互いゆずらず延長戦となり1点差で北陸が決勝進出。一方、連続優勝をねらう横浜商工(神奈川)と熊本市立商業(熊本)は、横浜商工の多彩な攻撃が優り決勝へと駒を進めました。春夏連覇を目指した久留米工大附属に競り勝った北陸の勢いはとまらず、3年連続優勝をねらった横浜商工をくだし初優勝しました。

女子のベスト4には、宣真・洛北(京都)の近畿同士。名短大付属(愛知)・暁(三重)の東海同士の対戦となりました。春夏連覇をねらう宣真は、地元の大声援をうける洛北をくだし目標達成に一歩前進。一方、東海大会決勝で涙をのんだ名短大付属は、暁に競り勝ち決勝へ進出。2年連続優勝の名短大付属は連覇をねらう宣真をくだし4年ぶりの優勝を飾りました。

「質実」をモットーにする京都総体。経費削減の一環として体育館内の冷房は設置できませんでした。暑さは、選手達のコンディションを左右する。また、選手からは汗がしたたり落ち足もとが滑る。加えて、ボールが汗でぬれ交換のためレフェリーストップが多い試合となりました。しかし、再三再四の競技中断を感じさせないほど、各府県の選手達の素晴らしいプレーに感謝申し上げます。

競技運営には、日本ハンドボール協会・全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部にご指導を賜りながら、地元八幡市・京田辺市の多くの諸機関・団体の方々をはじめ、府内のハンドボール関係者によって準備段階から大会期間中まで絶大なご協力をいただきました。また、府下各高校ハンドボール部員の競技補助員をはじめ、管内4つの高校（八幡・南八幡・田辺・同志社国際）にも役員及び補助員としてご協力いただき、一人一役の高校生の頑張りもあり、共に運営に一役かってくれました。

終わりに、本大会に参加され健闘されました選手を讃えるとともに、大会関係各位の絶大なるご尽力・ご協力に感謝申し上げ大会終了の報告といたします。

平成9年度第40回全日本教職員ハンドボール選手権大会・成績表（第24回）

平成9年8月6日(木)〜9日(土)・4日間
会場・愛知県体育館・枇杷島スポーツセンター

■男子の部

決勝
埼玉　フェニックス
愛知教員A 25 (15−16 / 10−17) 33 埼玉フェニックス
（中山 田中 T.大原 S.金子）

準決勝
愛知教員A 29 (14−13 / 15−14) 27 福岡教員（清水 内藤 T.山田 S.須賀）
埼玉フェニックス 26 (11−10 / 15−8) 18 愛知教員B（山口 小山 T.溝口 S.勝山）

準々決勝
愛知教員A 32 (11−9 / 21−9) 18 群馬教員（川地 名倉 T.松本 S.菅原）
福岡教員 21 (11−13 / 10−14) 27 … 埼玉教員 − 福岡教員（浅野 有我 T.須賀 S.山田）
埼玉フェニックス 42 (20−12 / 22−13) 25 栃の葉教員（木和田 河合 T.下川 S.千丈）
愛知教員B 21 (8−11 / 13−9) 20 岐阜教員（神谷 宇尾野 T.大原 S.金子）

1回戦
1 愛知教員A 36 (19−9 / 17−10) 19 2 長野教員（鈴木 安井 T.井上 S.尾崎）
3 愛媛教員クラブ 16 (11−7 / 5−11) 18 4 群馬教員（俵 村瀬 T.斉藤 S.荒木）
5 埼玉教員クラブ 41 (18−10 / 23−8) 18 6 イガヤクラブ（永田 中野 T.足立 S.飼沼）
7 千葉教員 15 (6−15 / 9−16) 31 8 福岡教員（滝川 菊田 T.井上 S.尾崎）
9 埼玉フェニックス 34 (16−9 / 18−8) 17 10 岡山教員（渋谷 坪井 T.菅原 S.伊藤）
11 栃の葉クラブ 34 (16−12 / 18−14) 26 12 岩手教員ハンドボールクラブ（中舘 浜野 T.河合 S.長縄）
13 愛知教員B 22 (8−4 / 14−6) 10 14 ATF（木和田 河合 T.須賀 S.荒木）
15 岐阜教員 22 (11−8 / 11−13) 21 16 ゆめクラブ（浅野 坂口 T.菅原 S.伊藤）

[3位決定戦(男子)]
(福岡教員)
福岡教員 31 (16−11 / 15−7) 18 愛知教員B（渡辺 楓 T.長縄 S.溝口）

[最終順位(男子)]
- 第1位　埼玉県・埼玉フェニックス
- 第2位　愛知県・愛　知　教　員　A
- 第3位　福岡県・福　岡　教　員
- 第4位　愛知県・愛　知　教　員　B

[優秀選手(男子)]ベストセブン
- GK　埼玉県・埼玉フェニックス・12番・大崎　保教
- CP　埼玉県・埼玉フェニックス・2番・山口　剛之
- CP　埼玉県・埼玉フェニックス・3番・稲村　正
- CP　愛知県・愛　知　教　員　A・14番・疋田　雅己
- CP　愛知県・愛　知　教　員　A・15番・向井　勝二
- CP　福岡県・福　岡　教　員・2番・野田　祐一
- CP　愛知県・愛　知　教　員　B・10番・鳥本　岳志

[特別賞争奪戦(男子)]

愛媛教員クラブ
愛媛教員 24 (9−15 / 15−11) 26 … 愛媛教員 22 (10−7 / 12−11) 18 千葉教員（河合 木和田 T.松本 S.細川）
長野教員 − 愛媛教員クラブ（有我 杉浦 T.細川 S.銅城）：24 (9−15 / 15−11) 26
イガヤクラブ − 千葉教員（渡辺 楓 T.斉藤 S.荒木）：30 (15−16 / 15−17) 33

岩手教員ハンドボールクラブ
岩手教員クラブ 23 (14−10 / 9−11) 21 ゆめクラブ（足立 濱田 T.河合 S.山口）
岡山教員 − 岩手教員ハンドボールクラブ（足立 濱田 T.河合 S.長縄）：25 (15−14 / 10−16) 30
ATF − ゆめクラブ（河合 木和田 T.須賀 S.神崎）：21 (15−12 / 6−15) 27

[特別賞争奪戦(女子)]

山口クラブ
愛媛クラブ − 山口クラブ（板倉 高森 T.下山 S.山口）：14 (8−6 / 6−13) 19

埼玉教員白小鳩
メガトン − 埼玉教員白小鳩（永田 中野 T.細川 S.須賀）：18 (7−10 / 11−13) 23

[特別賞受賞チーム]
■男子
- 愛媛教員クラブ
- 岩手教員クラブ

■女子
- 山口クラブ
- 埼玉教員白小鳩

ベストレフェリー
中山　光　弘(富山県)
田中　宏　育(富山県)

■女子の部

決勝
京都教員クラブ
愛知教員WINS 21 (9−13 / 12−12) 25 京都教員クラブ（小口 山田 T.田城 S.山口）

準決勝
かながわガビアーノ 11 (4−8 / 7−9) 17 愛知教員WINS（中山 田中 T.大原 S.阪本）
香川教員 17 (6−11 / 11−8) 19 京都教員クラブ（渡辺 楓 T.荒木 S.長縄）

準々決勝
1 かながわガビアーノ 17 (9−7 / 8−9) 16 メガトンズ（川地 名倉 T.近藤 S.廣野）
4 山口クラブ 11 (3−12 / 8−12) 24 5 愛知教員WINS（中山 田中 T.大原 S.阪本）
6 香川教員 27 (14−7 / 13−6) 13 7 栃の葉女子教員（飯沼 板倉 T.近藤 S.藤原）
京都教員クラブ 17 (6−5 / 11−8) 13 10 埼玉教員白小鳩（宇尾野 神谷 T.村上 S.浅田）

1回戦
2 愛媛クラブ 14 (6−13 / 8−11) 24 3 メガトンズ（小口 小山 T.村上 S.廣野）
8 京都教員クラブ 30 (16−1 / 14−5) 6 9 岐阜教員女子（中山 田中 T.近藤 S.岡田）

[3位決定戦(女子)]
(かながわガビアーノ)
かながわガビアーノ 16 (7−7 / 9−7) 14 香川教員（永田 中野 T.山田 S.山口雅）

[最終順位(女子)]
- 第1位　京都府・京都教員クラブ
- 第2位　愛知県・愛知教員WINS
- 第3位　神奈川県・かながわガビアーノ
- 第4位　香川県・香　川　教　員

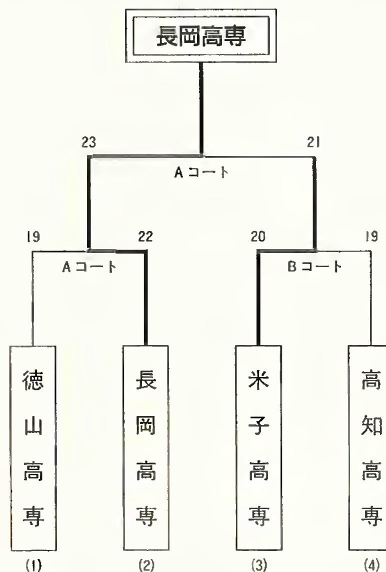
[優秀選手(女子)]ベストセブン
- GK　京都府・京都教員クラブ・1番・梅原　美紀
- CP　京都府・京都教員クラブ・7番・中江　加奈子
- CP　京都府・京都教員クラブ・11番・新熊　徳子
- CP　愛知県・愛知教員WINS・6番・下山　弘江
- CP　愛知県・愛知教員WINS・9番・加古川　己由紀
- CP　神奈川県・かながわガビアーノ・7番・藤平　晃子
- CP　香川県・香　川　教　員・10番・塚尾　恵子

第24回 全国高等専門学校 ハンドボール選手権大会

平成9年8月6日(水)～7日(木)
金沢市総合体育館

決勝トーナメント

優　勝	長岡工業高等専門学校 (関東信越地区)
準優勝	米子工業高等専門学校 (中国地区)
3　位	徳山工業高等専門学校 (中国地区)
3　位	高知工業高等専門学校 (四国地区)



■準決勝

徳山 19 (12−12 / 7−10) 22 長岡

米子 20 (8−10 / 12−9) 19 高知

■決　勝

長岡 23 (11−10 / 12−11) 21 米子

予選リーグ勝敗表

[1]

	A 徳山	B 和歌山	C 豊田	勝敗			得失点			勝点	順位
				勝	引分	負	得点	失点	差		
A 徳山		○ 33(15−7 / 18−11)18	○ 22(13−8 / 9−9)17	2		0	55	35	20	4	1
B 和歌山	× 18(7−15 / 11−18)33		× 16(5−14 / 11−17)31	0		2	34	64	△30	0	3
C 豊田	× 17(8−13 / 9−9)22	○ 31(14−5 / 17−11)16		1		1	48	38	10	2	2

[2]

	D 八代	E 長岡	F 石川	勝敗			得失点			勝点	順位
				勝	引分	負	得点	失点	差		
D 八代		× 21(10−9 / 11−13)22	○ 26(12−9 / 14−14)23	1		1	47	45	2	2	2
E 長岡	○ 22(9−10 / 13−11)21		○ 26(12−10 / 14−12)22	2		0	48	43	5	4	1
F 石川	× 23(9−12 / 14−14)26	× 22(10−12 / 12−14)26		0		2	45	52	△7	0	3

[3]

	a 米子	b 一関	c 鈴鹿	勝敗			得失点			勝点	順位
				勝	引分	負	得点	失点	差		
a 米子		○ 18(9−8 / 9−9)17	○ 31(13−5 / 18−9)14	2		0	49	31	18	4	1
b 一関	× 17(8−9 / 9−9)18		30(14−16 / 16−13)29	1		1	47	47	0	2	2
c 鈴鹿	× 14(5−13 / 9−18)31	× 29(16−14 / 13−16)30		0		2	43	61	△18	0	3

[4]

	d 明石	e 富山	f 高知	勝敗			得失点			勝点	順位
				勝	引分	負	得点	失点	差		
d 明石		○ 23(11−7 / 12−8)15	× 22(11−9 / 11−17)26	1		1	45	41	4	2	2
e 富山	× 15(7−11 / 8−12)23		× 15(6−16 / 9−17)33	0		2	30	56	△26	0	3
f 高知	○ 26(9−11 / 17−11)22	○ 33(16−6 / 17−9)15		2		0	59	37	22	4	1

平成9年度第5回全日本マスターズ大会

平成9年8月8日(金)〜10日(日)　　　会場・愛知県体育館

(男子の部)

	兵庫選抜	ATF	オールド愛媛	知多教員クラブ	46G会	勝点	総得点	総失点	得・失点差	順位
兵庫選抜		16△16 7−6 9−10	15△15 7−8 8−7	15△15 9−5 6−10	15○10 7−3 8−7	5	61	56	＋5	2
ATF	16△16 6−7 10−9		11×16 5−8 6−8	7×16 4−9 3−7	14×16 6−9 8−7	1	48	64	−16	5
オールド愛媛	15△15 8−7 7−8	16○11 8−5 8−6		13○7 9−3 4−4	12○10 8−3 4−7	7	56	43	＋13	1
知多教員クラブ	15△15 5−9 10−6	16○7 9−4 7−3	7×13 3−9 4−4		13×11 6−5 7−6	5	51	46	＋5	2
46G会	10△15 3−7 7−8	16○14 9−6 7−8	10×12 3−8 7−4	11×13 5−6 6−7		2	47	54	−7	4

●最終順位●

第1位・オールド愛媛
第2位・兵庫選抜
第2位・知多教員クラブ
第4位・46G会
第5位・ATF

優秀選手

■オールド愛媛
●竹村久晴(44)
●石川達也(41)
●高橋正行(40)

■兵庫選抜
●阪本光夫(47)
●笹野龍彦(43)
●大西一郎(39)

■知多クラブ
●竹内英章(40)
●石川幹夫(45)
●井田浩彰(40)

■46G会
●中野利一(47)
●横田高義(41)
●細野文男(41)

■ATF
●須賀通夫(51)
●西村亮治(55)
●若松義則(54)

(女子の部)

	武蔵野クラブ	1997飛勇太クラブ	瀬戸内レデース	寝屋川クラブ	中部ドリームズ	勝点	総得点	総失点	得・失点差	順位
武蔵野クラブ		19○6 9−1 10−5	19○8 10−5 9−3	16○6 11−0 5−6	13○7 6−3 7−4	8	67	27	＋40	1
1997飛勇太クラブ	6×19 1−9 5−10		10×15 5−6 5−9	7×9 2−5 5−4	7×9 2−5 5−4	0	30	52	-23	5
瀬戸内レデース	8×19 5−10 3−9	15○10 6−5 9−5		14○7 5−4 9−3	13×10 6−6 7−4	6	50	46	＋4	2
寝屋川クラブ	6×16 0−11 6−5	9○7 5−2 4−5	7×14 4−5 3−9		19×22 7−7 12−15	2	41	59	-18	4
中部ドリームズ	7×13 3−6 4−7	15○6 7−4 8−2	10×13 6−6 4−7	22○19 7−7 15−12		4	48	52	-4	3

●最終順位●

第1位・武蔵野クラブ
第2位・瀬戸内レデース
第3位・中部ドリームズ
第4位・寝屋川クラブ
第5位・1997飛勇太クラブ

優秀選手

■武蔵野クラブ
●地曳こづえ(38)
●高岡京子(37)
●佐藤泰子(31)

■瀬戸内レディース
●大瀧良子(46)
●北あつこ(43)
●朝賀博美(39)

■中部ドリームズ
●松本京子(42)
●道家田鶴(43)
●梅村千鶴子(45)

■寝屋川クラブ
●吉田美保(45)
●小森園多恵子(45)
●津熊美智子(50)

■1997飛勇太クラブ
●大崎幸美(48)
●上江涼子(44)
●竹下千賀(49)

世界選手権大会でのレフェリングをみて

光島　磯雄

様々な紆余曲折があったが、熊本県、熊本市、八代市、山鹿市の絶大な支援と、日本ハンドボールの総力を挙げての尽力により、今回の世界選手権大会が成功に終わったことは御同慶にたえないしだいである。

今回レフェリー部門のチーフとして新たに選ばれたアイスランドのキャルタン・シュタインバッハ氏が、IHF／PRC／(RSK)の新リーダーとしての初の大会であった。ルールの超ベテランともいえるリトアニアのヤーニス・グリンベルガス氏、ヨーロッパ連盟のレフェリーチーフであるドイツのマンフレート・ブラウゼ氏も来日し、レフェリーの研修・指導・監督の任にあたっていた。

今回のWC（WM）からレフェリーの選出規定が変更されて、各大陸別に推薦された候補を対象として決定されることとなり、従来チャンスに恵まれなかった地域から、たとえばアルゼンチン・モロッコ・ルーマニアなどからも参加する大会となったが、このことは今後の彼らの地域のレベルアップへのステップの一つとして評価されることが改めて確認されたと思う。しかしながら、見方を変え、言葉を換えるならば、今回来日したレフェリーは皆それぞれの地域の代表的存在であるものの、その吹笛内容や活動については上下・巧拙の差がはっきりしており、どうしても経験の少なさによる（環境の相違）感覚の誤差が多く見られ、これの縮小・改善は今後とも至難のことと見るのは無理であろうか？

各種多数の白熱的試合の吹笛を経験しているヨーロッパ系のレフェリーレベルには到底及びもつかない問題である。ドイツのビュロー・リュプカー組、ノルウェーのオイエ・ホクスネス組、スペインのガレゴ・ラマス組などをトップとしておのずから格づけがあり、ファイナルにいたるまでの割り当てにあらわれていた。

ここで近い将来に眼を移してみると、来る11月29日から始まる女子の世界選手権大会でも同様な現象が起こるであろうと見る。レフェリー決定の手順も同じであり、人は違っても熊本と似たことが起こるだろう。特に今度は新ルール施行の初めての大会であり、IHF／PRC／(RSK)は全レフェリーに対しての研修を徹底させるための努力を払うことを信じるが、改正事項以外で熊本で見られたようなレフェリーの出来、不出来とか、解釈の誤差についてどのように修正・指導するのかにも大きな興味・関心がある。いわく「ステップのこと」「ジャッグルのこと」「チャージングをみる角度位置」「アドバンテージ観念の違い」、そしてまた現在特別高等技術の部類に入ると考えられる「レフェリーの試合マネージ能力」にも様々な差異・適否・優劣が論じられることになるであろう。今回のレフェリングの中身については、従来の主要な大会に参加した人たちから紹介されたことが改めて繰り返されることであろうから、特に新鮮味は少ないと想像する。ただこれを今後どのように血肉として消化・吸収するかとなれば、レフェリー個々の資質もさることながら、全体の組織・体制のなかに「レフェリー強化」がシステムとして組み入れられなければ無意味である。

なお、熊本での日本協会シンポジウムの際、キャルタン・シュタインバッハの講演で、日本国内での罰則適用の対象基準が「個人」でなく「チーム」としていることが「誤り」であると指摘され、聴講者一同少なからぬショックを受けたことをあわせて記し、今後出来るかぎり早急の対応を期待して稿を終わる。

男子世界選手権大会におけるドーピングコントロールについて

日本ハンドボール協会医科学委員長
西山逸成


ウェイティングルーム

1　ドーピング（Doping）とは

スポーツ競技選手が自分自身の競技力以上の結果を得ようとして、禁止されている薬物を使用することや、認められていない方法を用いることである。

したがって「ドーピング」行為はスポーツマンシップの精神には反することになるので、たとえメダルを取得していても検査結果で違反者はメダル剥奪はおろか長期間の出場停止を宣告されるわけである。


採尿シャワー室

それでは、スポーツ愛好者の多くの人が常用しているドリンク剤は「ドーピング」といえないのだろうか。食品ドリンクと医薬品ドリンク（自動販売機では購入できず薬局でしか買えない）の飲用区分を明確にチェックし、ドーピング禁止薬効成分のカフェイン、アルコール他の確認が必要となってくるがその種の検査はできない。

かって著者らは、日頃チーム所属の選手が疲労回復、元気が出る等の効果を期待して飲用しているドリンク類がドーピングコントロールで問題なくOKかどうかを検査できないかという相談を受けたことがあるが、検査料が高価（一人約3万円）という理由よりも、検査機関（IOCから認定されている日本唯一の三菱化学BCLドーピング検査室）のもつ任務が「競技成績・記録」の公認要件として、そして検査実施によるアンチドーピング（ドーピング対策）の啓蒙・普及という二面から軽易な検査が実施できないことである。

2　1997年男子世界選手権大会におけるドーピング・コントロールの概況

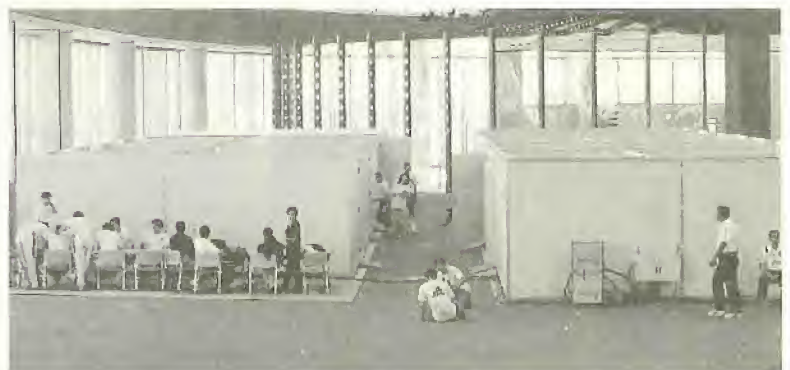
運営のための組織構成と実施要綱は、国際ハンドボール連盟（IHF）のアンチドーピング規程を準拠にして計画・実施した。

(1)ドーピング・コントロール・チーム（DOPING CONTROL TEAM＝DCT）の構成員

IHF医事委員――5名
JHA医事委員――1名
医師（熊本医師会）――16名
通告誘導員（語学ボランティア）――15名
（パークドーム熊本・6名、熊本市総合体育館・6名、八代市総合体育館・2名、山鹿市総合体育館・1名）
各会場マネージャー・輸送係――14名

(2)DCTの組織図（図―1）

63名の構成員により、次の組織・機能とした。


パークドーム内の検査施設

(3)各競技会場のドーピング・コントロール・ステーション（DOPING CONTROL STA

国際ハンドボール連盟（IHF・MC）

大会組織委員会・医事委員会
（ドーピングコントロール部会）

日本ハンドボール協会	熊本実行委員会	検体輸送班
1人	1人 / 大会事務局 1人	（クーリエ） 2×3

業務1

パークドーム会場D.C.S	熊本市総合体育館会場D.C.S	山鹿市総合体育館会場D.C.S	八代市総合体育館会場D.C.S
IHF・MC 1人	IHF・MC 1人	IHF・MC 1人	IHF・MC 1人
担当医師 1人	担当医師 1人	担当医師 1人	担当医師 1人
マネージャー 県職 1人	マネージャー 市職 1人	マネージャー 県職 1人	マネージャー 県職 1人
臨床検査技師 1人	臨床検査技師 1人	臨床検査技師 1人	臨床検査技師 1人
通告誘導員 語ボ 2人	通告誘導員 語ボ 2人	通告誘導員 語ボ 2人	通告誘導員 語ボ 2人
（検体輸送班員）	（検体輸送班員）	（検体輸送班員）	（検体輸送班員）
（通訳 県職）		（通訳 県職）	（通訳 県職）

業務3

※語ボ：語学ボランティア

図―1　DCTの組織・機能（熊本組織委員会）

TION＝DCS）の設置基準図（図―2）

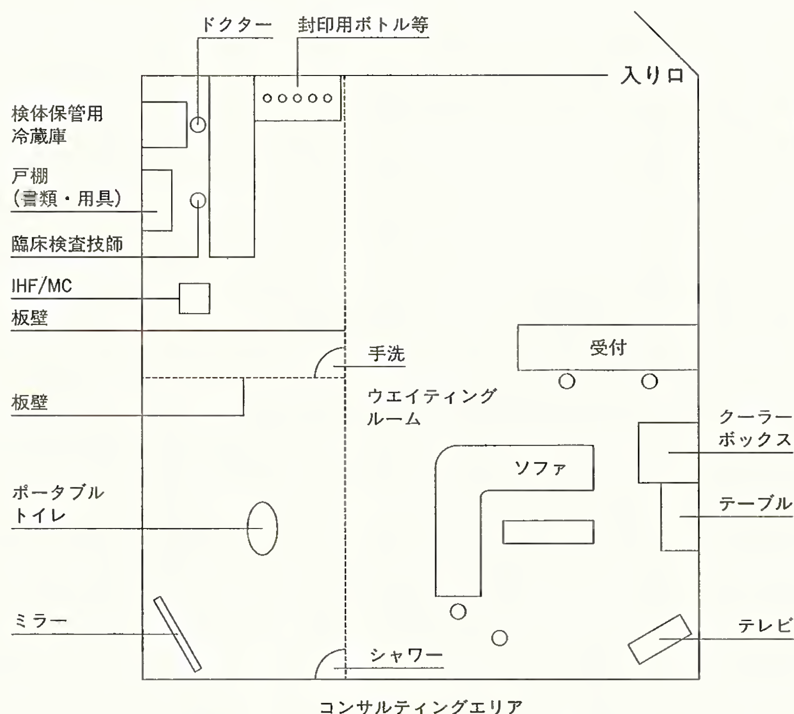
　4つの競技会場設備が各々異なっているので設置基準図を参考にそれぞれ設置した。

　原則事項としては、検査室とコンサルティングエリアが区分されていることが必要であり、検査室としては①採尿するためのトイレとシャワーは相互に通じていること、②採尿状況は検査委員によって完全に監視されるための設備のあること。③ドーピング検査用サンプルを安全に保管できる冷蔵庫があること。コンサルティングルーム（待機室）では、①選手・付添人のための安楽な椅子があること、②各種飲み物（ミネラルウォーター、ジュース、コカコーラ他）があること。

(4)ドーピング・コントロールの流れ（図―3）

(5)ドーピング・コントロール対象選手数の決定

①大会期間中の対象選手数の概定経緯（表―1）



図―2　ドーピング・コントロール・ステーション（DCS）　設置基準図（熊本組織委員会）

図－3　ドーピング・コントロールの流れ

世界選手権大会実施3か月前から熊本世界選手権大会組織委員会（医事部・ドーピング班）とIHF／医事委員会との連絡・調整によって逐次対象選手数の概定枠を把握していった。

約1年前には日本協会医科学委員会とIHF／医事委員会との調整に着手し、約6か月前には、熊本世界選手権時のドーピング・コントロール担当主務者の一人として、女子ヨーロッパ選手権大会時に実施されたIHF／医事委員会席上（デンマーク・ハーニング市）で熊本世界選手権大会のドーピング・コントロールの実施要綱の提示と討議が実施され、抽出選手数、IHF担当主務者の会場割当、対象試合会場、くじの作成主務者等の基本的事項が決定された。

併せてJHA参加者の西山は、ヨーロッパ女子世界選手権大会のDOPING CONTROLを実務研修の機会を与えられた。

表－1　ドーピングコントロール対象選手予定数（1997.4.27）

日　　時	検　体　数
5月18日	12
19日	8
22日	8
25日	12
27日	16
29日	16
31日	8
6月1日	8
総　　数	88

(6) 世界選手権大会期間におけるドーピングコントロール実施状況

表－2　ドーピング・コントロール検査実施状況

日付	会場・国	検体	計
5月18日(日)	熊本市総合体育館会場 フランス・イタリア・ノルウェー 大韓民国・スウェーデン・アルゼンチン	各1検体	計6検体
	山鹿市総合体育館会場 ポルトガル・ブラジル・チェコ エジプト・スペイン・チュニジア	各1検体	計6検体
5月19日(月)	パークドーム熊本会場 ユーゴスラビア・リトアニア アルジェリア・サウジアラビア	各1検体	計4検体
	八代市総合体育館会場 中国・ロシア・モロッコ・クロアチア	各1検体	計4検体
5月22日(木)	熊本市総合体育館会場 アルゼンチン・イタリア 大韓民国・スウェーデン	各1検体	計4検体
	山鹿市総合体育館会場 ポルトガル・チェコ エジプト・チュニジア	各1検体	計4検体
5月25日(日)	パークドーム熊本会場 ユーゴスラビア・リトアニア・アイスランド アルジェリア・サウジアラビア・日本	各1検体	計6検体
	八代市総合体育館会場 中国・ロシア・モロッコ・クロアチア キューバ・ハンガリー	各1検体	計6検体
5月27日(火)	パークドーム熊本会場 アイスランド・ノルウェー・スウェーデン ユーゴスラビア・リトアニア・大韓民国 フランス・日本	各1検体	計8検体
	熊本市総合体育館会場 スペイン・クロアチア・キューバ エジプト・チェコ・ハンガリー ロシア・チュニジア	各1検体	計8検体
5月29日(木)	パークドーム熊本会場 アイスランド・ハンガリー ロシア・大韓民国	各1検体	計4検体
	熊本市総合体育館会場 スペイン・スウェーデン エジプト・フランス	各2検体	計8検体
6月1日(日)	パークドーム熊本会場 スウェーデン・ロシア フランス・ハンガリー	各2検体	計8検体
		合　計	76検体

（表―2）

大会前に事前通知された88検体数に対して76検体の実施結果となった。

減少理由として、IHF規則第9条の改正にともない、検査結果の異常の有無の結果通知は「当該選手の所属チームの試合開始の2時間前までに報告されなければならない」の適用を受けて連日試合が行われるAチームで採尿↓検査機関受領後試合開始迄が24時間以内であれば、Aチームは検査対象外とならざるを得ないことになり、ドーピング・コントロールから除外されることになる。したがって準々決勝及び準決勝では当然減少となった。

3 大会期間中における医療処置の申告



検査室

ドーピング・コントロールが厳格に実施されるからといって、感冒・下痢あるいは筋・骨格系傷害の処置ができないのでは、メディカルサポートして、選手のコンディショニングに支障を生ずることになろう。したがってIHF規程によってチーム・ドクターが処置申告書を提出することに規定されている。

（表―3）

ドーピング・コントロールの対象選手が検査室で採尿が終了し、解放される直前に「この3日間に何らかの医療処置として薬物を服用あるいは使用しましたか」と諮問されることになっている。解答者は選手本人でもよいが、通常付添のドクターが医療申告書によって応答するのが通常である。

NA男・女チームドクターは、常日頃から記録保管しておくと国際大会時には便利でもある。

表―3

医療(関係)申告書

～から
(氏名)(FROM:) ______
IOC医療委員会へ(TO: IOC MEDICAL COMMISSION) ______
署名者は医療に理由により(下記の薬を)服用したことを確認する。
大会名(COMPETITORS NAME:) ______
AD番号(ACCREDITATION NUMBER:) ______
競技種目(SPORT:) ______
承認されているBETA-2 AGONIST DRUG、または、IOC禁止薬物リストのCLASSⅢの薬と禁止された方法は競技に先立ち、関係医療機関に書面にて報告されなければならない。
薬品名(NAME OF SUBSTANCE:) ______
服用量(DOSAGE:) ______
投与の方法と期日(ROUTE AND DATE OF ADMINISTRATION:) ______
投与期間(DURATION OF ADMINISTRATION:) ______
診断(DIAGNOSIS:) ______
日付(DATE:) ______
担当医師名(NAME OF HEAD PHYSICIAN:) ______
(責任者) ______
署名(SIGNATURE:) ______

4 日本ハンドボール協会における今後のドーピングコントロールの一方向

平成9年度から日本オリンピック委員会（JOC）の事業として希望競技団体に実施される予定のドーピング・コントロール（ドーピング検査）の実施案が強化員会で提示された以降の検討内容を紹介しよう。

Q1：ドーピング検査結果で違反者が生じた場合に、即座に日本ハンドボール協会（JHA）の「アンチ・ドーピング規程」（国際オリンピック委員会（IOC）、国際ハンドボール連盟（IHF）の規程第10・11・12条を受けて1997年3月に作成）（※1）の違反者条項（JHA規程第11条）を適用するのか？

A1：いきなり違反者をJHA規程第10条、12条により諮問・調査するのではなく、試行の普及期間をおき、1～2年間はドーピング検査機関（日本国内唯一のIOC認定検査機関）としては、検査結果をJHAに通知するとともに、JOCに通報することになる。当然違反者に対してはJOCはJHA規程を尊重して指導・判断することになろう。

（※1）に示されている当該大会の残り試合の出場停止・国内大会及び国際大会への2～4年間（同一選手2度目）の出場停止処分等。

Q2：もしもドーピング・コントロールを実施する場合の対象はどのような選手層を考えているか？

A2：国際大会に参加可能な選手層を抱えている日本リーグ加盟チームを主対象とすれば、全日本チームとして世界選手権大会等派遣時には、たとえ対象選手に抽出されても基礎知識に基づいて抵抗なく対応できるだろう。

（例）ジュニア女子世界選手権大会が7月20日～8月10日の間アフリカ・コートジボワールで実施されたが、日本チームに対し、IHFアンチ・ドーピング規程（英語原文・日本語訳）を紹介・説明した。

今後もIHF、AHFの主管大会への海外派遣チームに対し、啓蒙教育をすすめていきたい。

JOCとしては、本年度13競技団体から全競技種目団体自身が逐次アンチ・ドーピング（ドーピング対策）及びドーピング・コントロール（ドーピング検査）を展開することを補助することになっている。

〈主要参考資料〉

1 「わかりやすいアンチドーピング（1～19回）」「指導者のためのスポーツジャーナル」、(財)日本体育協会
2 「アンチ・ドーピング規程（1997年）」(財)日本ハンドボール協会（1997年2月）
3 「1997・熊本男子世界選手権大会報告書」熊本選手権大会組織委員会（1997年9月）

公式戦での縫いボールの取り扱いについて

競技担当常務理事　大塚　文雄

本年度より各種大会とも縫いボールをご使用いただきまして、ありがとうございます。縫いボールは貼りボールに比べ、ボールの扱いが楽で技術の向上や安全性に優れており、はじめて使う中・高校生にはおおむね好評のようです。

しかしながら、縫いボールにもいろいろな問題点があり、現在メーカー側とも改良に向け研究中ですが、縫いボールのニューボールを公式戦で使用する場合、次のことをご留意ください。

1　ボールのサイズについて

縫いボールは、貼りボールと違い一つ一つ大きさに誤差があり、縫いあわせの部分がなじんでいなかったり、革ののび等も考え、多少小さめに作られておりますので、公式戦で使用する際には、２～３日前から空気圧を高め、縫い目のところをなじませる。また、このボールで２～３日使用して革をなじませる、などして出来るだけ正規の大きさに近づけてご使用ください。

2　空気圧について

日本製のボールは弾み過ぎの傾向があり、これもメーカー側と研究中ですが、国際試合等で使用するA社のボールと同じ材質・仕様のものを使えばこの問題は解決するのですが、価格がボール１個につき12，000円と高価になってしまい、日本の現状ではこれも問題です。本来ならはっきりと空気圧を決めたいところですが、空気圧（ボールのかたさ）を決めてしまうと弾み過ぎてしまいますので、現在のところ、弾み過ぎを防ぐため、高さ約２メートルから落とし、約90センチ位バウンドする空気圧が最適かと思われます。

しかしこの圧ですと、かなり軟らかいボールとなるため、微妙な問題ですが、あまり空気圧が少なくならないように調整をお願い致します。

「チームタイムアウト」の取り方について

秋のハンドボールシーズンを迎え、各チーム共練習に余念のない事と思いますが、「チームタイムアウト」の取り方について年度当初伝達致しました方法を若干変更致します。各チームとも遺漏のないようお願い致します。

●変更点

「チームタイムアウト」を取ろうとするチームは、自チームが「チームタイムアウト」を取れる状況になった時、（得点された時、ゴールスローになった時）チームタイムアウト申請板をタイムキーパーに提出すれば、取ることが出来る。

あらかじめ申請板をタイムキーパーに提出しておかなくても良い。（もちろん、前もって提出しておいても差し支えない。）

ただし、記録席のオフィシャルは各々業務を行っているので、申請板を提出するタイミングが悪くゴールスローを行ってしまった後であったり、スローオフの笛が吹かれてしまい、「チームタイムアウト」が取れない事も予想されますが、この事でオフィシャルとトラブルにならないよう十分ご留意下さい。

この件は、日本協会と致しましてはアトランタ・オリンピックの際のＩＨＦ総会で決定されましたルールにのっとり、本年４月１日より実施してまいりましたが、その後、ＩＨＦでは解釈・運用面で若干のずれが生じ、熊本世界選手権大会でも変更後の方法で実施されました。また、８月末に開催されました、ジャパン・カップでも同様の方法で実施致しました。

そこで、ニュールールを適用した年度の途中で、実施方法を変更するのも如何かと思いましたが、８月のジャパンオープン大会で実施してみましたところ、混乱もなく実施できましたので、世界の流れのなかに自然に流れに乗せたほうが混乱が少ないと考え、変更致すことに致しました。

何卒よろしくお願い申し上げます。

60周年を実りあるものに

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

独・韓国・中国から４チームを迎えてジャパンカップが開かれ、日本はナショナル、Ｕ－23の男女が出場したが、男子のナショナルは蒲生新監督のデビュー戦でもあった。

開催要綱をみると、今大会の目的を三つ挙げている。その一つに「日本協会60周年記念行事の一環」とある。還暦を迎えることは、まずはおめでたいことだ。

ところで、このビッグイベントの報道ぶりがあまりにも寂しすぎるのが気になった。５月、熊本の男子世界選手権をあれだけ派手に取り上げたのが信じられないくらいだ。また元の隅っこに追いやられてしまった感じである。

大会を開催するに当たり日本協会は、せっかくの〝あの熱気〟を消さない努力をどこまで真剣に考えたのだろうか。専門誌はともかく、取材陣をみてがく然とし、大きなショックを受けた。

男子にとっては2000年シドニー五輪へ三大会ぶり出場を目指す蒲生新体制のスタートだった。女子にしても今年暮れの世界選手権出場という好材料もある。これらを60周年事業とリンクさせ、マスコミへのプッシュをもっと強力にできる可能性は十分あったはずだ。

「熊本が成功したから」で満足したのなら何のための日本招致だったのだろうか。何度かこれまでもこの欄でふれてきたが、ポスト熊本にどう取り組むかが、日本ハンドボール界の命運を握っているといっても過言ではない。今大会を振り返ったとき「熊本前」に戻ってしまう危険性がみられるし、すでにその状態になった－といえるかもしれない恐ろしさを感じざるを得ない。

熊本は一体何だったのか。あれほどの熱狂に他の競技団体が驚いたエネルギーを継続させることは今が最大のチャンスであり、利用しない手はない。短期、中期、長期のビジョンを早急にまとめ〝熊本の熱風〟を取り組むことが大切だ。

現代社会の流れは早い。〝人のうわさも75日〟の言い伝えもある。60周年を実りあるものに、上昇気流に乗せるために…マスコミへのプレッシャーを強めたい。日本リーグも始まった。ことあるごとに〝ハンドボールのＰＲ〟に努めることを忘れまい。

学校体育ハンドボール検討委員会

簡易ハンドボール指導の実践報告書

岩手大学教育学部附属小学校　三浦　建成

①単元名

「力のかぎり　さあ、シュート！」（ハンドボール）―4学年―

・児童数40名：男子20名、女子20名。

②子供達の準備状況の把握

1)関心・意欲面：ハンドボールのルールを詳しく知っている子はいなかったが、クラブ所属の子が1名いたのでゲームの様子についておおそ想像できる子がほとんどだった。

「ハンドボールは手で行うサッカーのようなもの」といった子がおり、そこから導入した。ルールの説明や小学生の全国大会のVTRを見せるにつれて、特に大部分の男子が興味を示した。

2)体力面：体力的に劣っている子はいなかった。これまで様々なゲームを経験してきた。

3)技能面：すでに「ポートボール」で、基本的な技能、類似した動きは身につけている。また、「ボールを操作する運動」で、投げることやキャッチすることも扱ってきた。男女差、個人差はあると思われた。

③種目特性のとらえ方

1)正規のハンドボールとの関係：ハンドボールを「手を使うパスやドリブルによって、チームで協力してボールを運び、半円状のエリアの外からゴールキーパーの守っているゴールへボールをシュートして得点を競い合うゲーム」ととらえる。

2)子供に触れさせたい特性：

・直線的なシュートのおもしろさ：ゴールめがけて力いっぱいボールを片手で投げ込むシュートは子供たちにとって魅力的である。

・シュートに結びつくコンビネーションプレーやフォーメーションプレー：他のボール運動とくらべて、小さなボールを扱うので、操作が容易である（片手でも扱える）。自分たちで戦術を考えながら学習を進めることができる。

④ねらい

●関心・意欲・態度

1)進んで学習に参加し、ルールを守り、協力して仲良くゲームを楽しんでいる。

2)チーム内での自分の役割を決め、力いっぱい練習やゲームに取り組んでいる。

●思考・判断

3)自己の能力やチームの実態に適した課題を持つことができる。

4)チームの作戦を考え、ゲームに生かしたりその反省をしたりすることができる。

●技能

5)人やボールの動きに合わせて素早く動き、パス、ドリブル、シュート等を選択してゲームができる。

6)パスをつないで攻めたり、役割を決めて守ったりするような簡単な連携プレーができる。

⑤教材化における工夫

授業にあたっては、以下のことを子供たちに十分味わわせるようにする。

1)勝敗ではなく、ボールゲームそのものの楽しさを味わわせる。

2)ボールを投げることを上手にさせる。上手な子にはジャンプシュートもさせる。

3)だれもがゲームに参加したという充足感を味わわせる。

4)どのチームにも勝てるという期待感をもってゲームに臨ませ、ゲームを楽しむ満足感を味わわせる。

5)ボールや人の動きを広い視野で見て、素早く動いてスピーディーなゲームを楽しませる。そのために、次のような手だてを考えた。

・チームのめあてを持たせ、その達成にむけて練習や作戦を工夫させる。

・準備運動にキャッチボールやシュートなどのボール操作を取り入れ、個人技能を向上させる。

・ゲームの人数を少なくし、運動量を保障する（1チーム5名、うち1名はゴールキーパー）。

※チームづくり：本校の特色である男女同数と、年度始めの運動能力調査の結果とを生かし、男女混合で異能力集団を教師が作る。他の運動を行う場合も、年間を通じてメンバー構成を変えない。チーム間の差が出てくる場合は子供たち自身に考えさせる。キャプテンはチーム内で互選で決定する。

・2人での攻めを基本型にし、2対0→2対1→2対2の練習でパス技能と集団技能を高める。

・練習したことや作戦がゲームに生かされたかを個人やチームで反省、評価させる。

・1時間の学習の流れを［練習・作戦］→［ゲーム］→［反省・評価］とする。

・ボールは、片手でも容易に扱えるゴムボールとし、ボール扱いを上達させ、幅の広いプレーを

させる。

・ゲーム運営の役割（審判、ゲーム記録等）を持たせ、ゲームに対する関心を持たせる。

・ゲームをスムーズに行うため、審判については、子供たちを中心にした審判講習会等を開き、ルールに関する知識を与え、意志統一を計る。

・だれもが納得し、楽しんでゲームに参加できるように、子供たちにルールを考えさせる。

学習指導計画（12時間）

分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
0〜10	オリエンテーション	準備運動	準備運動 セット化してチームごと								準備運動 作戦・練習	
10〜20	オリエンテーション	練習	・ボール慣れ ・シュート練習 ・チーム練習 ・試しのゲーム ※5分ハーフ ・ゲーム記録のしかた ・反省			・2対0→2対1→2対2 ・ゲーム前チーム練習 ・作戦 ・ゲーム ※5分ハーフ ・反省				大会の計画準備 ・キャプテン会議 ・チーム練習	ハンドボール大会	
20〜30	VTR視聴	試しのゲーム										
30〜45	課題作り	試しのゲーム										

※ルールづくり：ゲームを成立させるために、もとになる最低限のルールを教師から提示し、全体で共通理解する。「初めのルール：ゴールキーパーは得点を決めた者が交替する。初得点だけ5点。その他は既習のポートボールに準ずるが、ファールの後のフリースローはその地点から行う。」

・学習カード、ゲーム記録カード（心電図）の工夫。

・審判認定証の授与（審判講習会とルールクイズの実施による）。

⑥学習指導計画（表1参照）

第4時からは教育実習生（小森、後藤、菊地、山日、仙波、及川）の授業である。

⑦実践の結果の考察

1)ゲームの様相の変化について

単元の時間の関係もあり、そう大きくは変化しなかったように思う。一応、「だんご型」を脱し、「飛び出し型」を期待して授業を計画した。この後、守りの方にも意識を向けさせることにより、「半ゾーン型」等に移行する可能性はある（3学年では系統的に「ラグハンド」を指導しており、ドリブルなしでボールが移動するので攻守の切り替えが早く、守る方は自然にゾーンを守るようになる）。

2)子供たちの変容について

子供たちにとって、まさに〝ニュースポーツ〟だった。3m×2mの枠の中に力いっぱいボールを投げ込むこのゲームは、子供たちにボールゲームの楽しさを体感させてくれたに違いない。「先生、生まれて初めてシュート（得点）したよ！」という子はざらであり、「生まれて初めてシュートを撃った」という子もいた。これまでのサッカーやポートボールではなかなかその感激を味わうことができないでいた子がいたのだ。さらに、個人の枠を越えて「チーム」というものを意識するようになる。「自分が中心」という段階から多くの子が巣立っていく。また、体育に消極的で、いつもチームメートをいら立たせ、もめ事を起こす子供が、積極的に運動にかかわろうとする姿……。どんな教材で、何を教えるかを深く吟味すれば、どの学年でも同じような姿を期待できる。

現在、ハンドボールを小学校の新学習指導要領へ教材として導入していただけるよう、日本協会として文部省に働きかけているところです。

[お問い合わせ]
秋田大学教育学部　佐藤　靖まで
勤務先　〒010
秋田県秋田市手形学園町1−1
TEL・FAX：0188−89−2577
E-mail:yasushi@ipc.akita-u.ac.jp

●1997年熊本世界ハンドボール選手権パーフェクトビデオ

"世界"を再び!!



超人たちの躍動80試合を完全収録

全世界にテレビ放映された熊本世界選手権の熱戦80試合を完全ビデオ収録しました。4パターンのシリーズを用意。ロシアースウェーデンの決勝戦はもとより、歴史に残る名勝負といわれたロシアーフランス戦、国内中のファンが一喜一憂したフランスー日本戦など好ゲームが目白押しです。この機会に〝超人〟たちの躍動を1人占めにして下さい。

各種シリーズ	内　容	セット価格
A：がんばれニッポンシリーズ	健闘の日本を中心とした10試合セット	10本セット50,000円
B：興奮クライマックスシリーズ	決勝、準決勝の激闘など終盤の10試合	10本セット50,000円
C：熱戦パーフェクトシリーズ	〝これは〟という熱戦を厳選した豪華版	15本セット75,000円
D：お好みチョイス	大会80試合すべてのリクエストに対応	1本につき　5,500円

※上記に消費税、送料は含みません

お求めは
日本ハンドボール協会
及び
スポーツイベントまで

KEIRIN

このビデオの製作にあたっては「競輪公益基金」の補助を受けました。

●配給元/財団法人日本ハンドボール協会
TEL03-3481-2361・FAX03-3481-2367

●発売元/株式会社スポーツイベント
TEL03-3294-5231・FAX03-5259-7339

世界のスーパープレーを1人占め！

品番	カード				品番	カード			
WM①	予選リーグA	○アイスランド	24―20	日本●	WM㊶	〃	○フランス	23―20	ノルウェー●
②	〃	○リトアニア	27―18	サウジアラビア●	㊷	〃	○スウェーデン	19―17	イタリア●
③	〃	○ユーゴスラビア	22―19	日本●	㊸	予選リーグC	○エジプト	33―11	ブラジル●
④	〃	○アルジェリア	27―27	アイスランド●	㊹	〃	○チェコ	19―18	チュニジア●
⑤	予選リーグB	○フランス	25―21	イタリア●	㊺	〃	○スペイン	29―26	ポルトガル●
⑥	〃	△韓国	21―21	ノルウェー△	㊻	予選リーグD	○中国	25―21	モロッコ●
⑦	〃	○スウェーデン	36―17	アルゼンチン●	㊼	〃	△クロアチア	23―23	キューバ△
⑧	予選リーグC	○ポルトガル	26―18	ブラジル●	㊽	〃	○ロシア	24―19	ハンガリー●
⑨	〃	○エジプト	24―22	チェコ●	㊾	予選リーグA	○アイスランド	25―22	サウジアラビア●
⑩	〃	○スペイン	32―21	チュニジア●	㊿	〃	○リトアニア	24―15	日本●
⑪	予選リーグD	○ロシア	31―17	キューバ●	(51)	〃	○ユーゴスラビア	28―24	アルジェリア●
⑫	〃	○クロアチア	34―21	中国●	(52)	予選リーグB	○韓国	27―22	イタリア●
⑬	〃	○ハンガリー	25―19	モロッコ●	(53)	〃	○ノルウェー	27―22	アルゼンチン●
⑭	予選リーグA	○ユーゴスラビア	29―21	リトアニア●	(54)	〃	○フランス	29―26	スウェーデン●
⑮	〃	○アルジェリア	19―14	サウジアラビア●	(55)	予選リーグC	○チュニジア	17―15	ブラジル●
⑯	予選リーグD	○ロシア	34―15	中国●	(56)	〃	○エジプト	29―25	ポルトガル●
⑰	〃	○クロアチア	26―17	モロッコ●	(57)	〃	○スペイン	29―26	チェコ●
⑱	予選リーグB	○韓国	27―26	フランス●	(58)	予選リーグD	○キューバ	35―20	モロッコ●
⑲	〃	○スウェーデン	24―17	ノルウェー●	(59)	〃	○ハンガリー	39―19	中国●
⑳	予選リーグC	○チェコ	24―10	ブラジル●	(60)	〃	○ロシア	31―20	クロアチア●
㉑	〃	△エジプト	19―19	スペイン△	(61)	決勝トーナメント	○アイスランド	32―28	ノルウェー●
㉒	予選リーグA	○日本	23―20	サウジアラビア●	(62)	〃	○韓国	37―33	ユーゴスラビア●
㉓	予選リーグB	△イタリア	19―19	ノルウェー●	(63)	〃	○スウェーデン	32―20	リトアニア●
㉔	〃	○フランス	24―20	アルゼンチン●	(64)	〃	○フランス	22―21	日本●
㉕	予選リーグC	○チュニジア	19―18	ポルトガル●	(65)	〃	○スペイン	31―25	クロアチア●
㉖	〃	○スペイン	32―11	ブラジル●	(66)	〃	○エジプト	24―20	キューバ●
㉗	予選リーグD	○ロシア	30―13	モロッコ●	(67)	〃	○ハンガリー	20―19	チェコ●
㉘	〃	○ハンガリー	22―21	キューバ●	(68)	〃	○ロシア	20―14	チュニジア●
㉙	予選リーグA	△リトアニア	19―19	アルジェリア△	(69)	準々決勝	○ハンガリー	26―25	アイスランド●
㉚	〃	○アイスランド	27―18	ユーゴスラビア●	(70)	〃	○ロシア	32―15	韓国●
㉛	予選リーグB	○イタリア	21―15	アルゼンチン●	(71)	〃	○スウェーデン	28―24	スペイン●
㉜	〃	○スウェーデン	36―21	韓国●	(72)	〃	○フランス	22―19	エジプト●
㉝	予選リーグC	○エジプト	24―17	チュニジア●	(73)	順位決定予備戦	○アイスランド	32―23	スペイン●
㉞	〃	○チェコ	28―24	ポルトガル●	(74)	〃	○エジプト	28―27	韓国●
㉟	予選リーグD	○キューバ	32―21	中国●	(75)	5―6位決定戦	○アイスランド	23―20	エジプト●
㊱	〃	○ハンガリー	23―20	クロアチア●	(76)	準決勝	○スウェーデン	31―19	ハンガリー●
㊲	予選リーグA	○ユーゴスラビア	32―20	サウジアラビア●	(77)	7―8位決定戦	○スペイン	33―26	韓国●
㊳	〃	○日本	24―14	アルジェリア●	(78)	準決勝	○ロシア	25―24	フランス●
㊴	〃	○アイスランド	21―19	リトアニア●	(79)	3―4位決定戦	○フランス	28―27	ハンガリー●
㊵	予選リーグB	○韓国	32―22	アルゼンチン●	(80)	決勝戦	○ロシア	23―21	スウェーデン●

このシリーズはＮＨＫが全世界に向けて制作したテレビ映像をビデオ化したもので、10台のカメラを駆使して撮影され、シュートシーンなど好プレーのスロービデオもふんだんに盛り込まれています。

シリーズ	内容	品番	価格（税別）
A：がんばれニッポン！	健闘日本を中心にセレクト	①③㉒㊳㊿(64)(71)(74)(78)(80)	10本セット＝50,000円
B：興奮クライマックス	終盤の激戦をピックアップ	(62)(64)(66)(67)(69)(71)(72)(78)(79)(80)	10本セット＝50,000円
C：熱戦パーフェクト	絶対におすすめの豪華版！	④⑱㉑㉕㊱㊼(54)(62)(64)(65)(67)(69)(71)(78)(80)	15本セット＝75,000円
D：お好みチョイス	大会80ゲームのすべてのリクエストに対応します！		1本につき5,500円

※送料は何巻でも500円です

■支払方法／現金書留、郵便振替または銀行振り込みによる前払いです（宅急便・着払いもあり）。
■分割払い／信販会社を通じての分割払いやボーナス時一括払いも受け付けています。

●お申し込みは下記の申し込み用紙をコピーの上、日本ハンドボール協会（ＦＡＸ03-3481-2367・ＴＥＬ03-3481-2361）またはスポーツイベント（ＦＡＸ03-5259-7339・ＴＥＬ03-3294-5231）までＦＡＸでお送り下さい。シリーズにチョイス（１本につき5500円プラス）を加えることも可能。電話でも受け付けています。すべてのお問い合わせはスポーツイベントが承ります。

◆世界選手権ビデオ発売元／㈱スポーツイベント　〒101 東京都千代田区神田小川町1―9　川上ビル３階
ＴＥＬ03-3294-5231（代）／ＦＡＸ03-5259-7339／郵便振替・00140-5-11951

世界選手権ビデオ申し込み書

ご住所：〒

お名前：

ご自宅電話番号：

連絡先電話番号：

職　業：

年　令：

（シリーズ名を明記して下さい）　シリーズを（代金　　　円）購入します。

（品番を明記して下さい）　をチョイスで（代金　　　円）購入します。

合計　　　円

10月の行事予定

10月2日　世界選手権熊本大会組織委員会総会
10月18日　常務理事会
10月26日～30日　国民体育大会（大阪）
（成年男子）高石市・大阪府臨海スポーツセンター／堺市・堺市立大浜体育館、堺市家原大池体育館
（成年女子）堺市・堺市立大浜体育館、堺市立商業・第二商業高校体育館、堺市家原大池体育館
（少年男子）堺市・堺市家原大池体育館、堺市立商業・第二商業高校体育館
（少年女子）堺市・堺市家原大池体育館、堺市立初芝体育館

【10月の日本リーグ日程（一部のみ）】

●10月1日(水)
（女子）大崎×オムロン（志木）
●10月2日(木)
（女子）イズミ×立山（広島）
●10月5日(日)
（男子）大同×三陽（名古屋）
（男子）北電×本田
（女子）立山×ジャスコ
北国×大崎（小松）
（女子）オムロン×日立（京都）
（男子）湧永×中村
（女子）イズミ×大和（甲田町）
（男子）日新×大崎（呉）
●10月8日(水)
（女子）日立×大崎（栃木）
（女子）立山×立山（氷見）
●10月9日(木)
（女子）ジャスコ×大和（四日市）
（女子）オムロン×イズミ（山鹿）
●10月11日(土)
（男子）大同×日新（名古屋）
●10月12日(日)
（女子）日立×立山（青森）
（男子）三陽×北電
中村×大崎（東京）
（男子）本田×湧永
（女子）ジャスコ×イズミ（名張）
（女子）大和×大崎（守口）
（女子）オムロン×北国（水俣）
●10月16日(木)
（女子）イズミ×日立（広島）
●10月18日(土)
（男子）大崎×本田
（女子）大崎×ジャスコ（三郷）
●10月19日(日)
（男子）北電×大同
（女子）北国×大和
立山×オムロン（富山）
（男子）日新×中村（神戸）
（男子）湧永×三陽（高知）

CONTENTS　8月号

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

HAND BALLS

国際公認球

アデランテ 前進





ホワイト／ブラック



ホワイト／ピンク

PKCH3-AD ¥4,600

検定球3号，国際公認球，アデランテ，手縫い
一般・大学・高校・男子用，天然皮革
パキスタン製

PKCH2-AD ¥4,500

検定球2号，国際公認球，アデランテ，手縫い
一般・大学・高校・女子用，中学校用，
天然皮革，パキスタン製



ホワイト／ブラック



ホワイト／ブルー



ホワイト／ブラック



ホワイト／ピンク

PKCH3-BS ¥4,000

検定球3号，ビッグシュート，手縫い
一般・大学・高校・男子用，人工皮革，
パキスタン製

PKCH2-BS ¥3,800

検定球2号，ビッグシュート，手縫い
一般・大学・高校・女子用，中学校用，
人工皮革，パキスタン製

NEW



NEW





PKCH3-SRT ¥5,600

検定球3号，スエルテ，48枚パネル，手縫い
一般・大学・高校・男子用，天然皮革
パキスタン製

PKCH2-SRT ¥5,500

検定球2号，スエルテ，48枚パネル，手縫い
一般・大学・高校・女子用，中学校用，
天然皮革，パキスタン製

PKCH3-ADR ¥2,800

練習球3号，アデランテ，　手縫い
一般・大学・高校・男子用，合成ゴム
パキスタン製

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

本　　社　／〒733　広島市西区楠木町3丁目11-2　TEL082（237）5145
東京営業所　／〒111　東京都台東区松が谷1丁目5-14　TEL03（3843）4671
大阪営業所　／〒543　大阪市天王寺区東高津町1-6　TEL06（761）8441
大阪物流センター／〒577　東大阪市西堤本通東3-4　TEL06（781）4845
広島営業所　／〒733　広島市西区楠木町3丁目11-2　TEL082（237）4772
名古屋営業所　／〒460　名古屋市中区千代田2丁目24-8　TEL052（251）2381
福岡営業所　／〒812　福岡市博多区東比恵4丁目12-9　TEL092（431）6950
仙台営業所　／〒984　仙台市若林区卸町東4丁目1-8　TEL022（288）2361

(財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第三七九号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
平成九年九月二十六日　印刷　平成九年十月一日　発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表　三四八一－二三六一
振替　〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人　中澤重夫
価格は登録金に含む

